

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

( 第 2 号 )



1 平成3年9月17日（火曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	16番 鈴木 勝美
17番 鈴木 忠夫	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	21番 神田 守隆
22番 福原 勤	23番 石井 昌治
24番 石井 輝久	25番 流山源次郎
26番 辻田 実	27番 横溝 功
28番 飯田 義男	

1 欠席議員 1名

20番 生稲 陞

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 渡辺 弘	市長公室長 佐藤 輝雄
総務部長 二通 英雄	民生部長 佐藤 澄雄
経済部長 脇田 元始	建設部長 伊東 衛
水道課長 鈴木 信一	教育委員会 会長 山田 教和
教育委員会 会長 福原 修	農業委員会 会長 小倉 孝

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一

事務局長補佐 土橋 康彦

書記 鈴木 哲

書記 鈴木 修一

書記 加藤 浩一

# 1 議事日程（第2号）

平成3年9月17日午前10時開議

## 日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時04分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数27名、これより第3回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

### 行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の9月10日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 今回の質問で通算して連続50回目の質問となりますが、どうぞよろしくお願いをいたします。

さて、質問に先立ちまして、先月ソ連でソ連共産党が関与したとされるクーデターが失敗し、ソ連共産党は解散ということになりました。我が日本共

産党はこのソ連共産党の解散を世界の歴史の進歩ということから大変よいことだと心から歓迎をしております。

スターリン以来のソ連共産党は、科学的社会主義の理念とは無縁な覇権主義、大国主義の政策を世界に押しつけてきました。我が国に対しても我が国の固有の領土である千島列島を不法に領有してきました。長期にわたり日本人を使役させたシベリア抑留は国際法上何らの正当性を持ち得ない不法行為でした。また、日本の政党である我が党に対しても、ソ連共産党の言うがままの分派を育成し、内部から我が党をソ連追従の党に変質させようと文字どおりクーデター的な干渉もしてまいりました。こうした押しつけと干渉の政策を世界各地で展開してきたのであります。

世界史の上で民族自決権の尊重を世界政治の舞台に初めて登場させたのはほかならぬソ連共産党の創始者であるレーニンでした。帝政ロシアのもとで併合され、民族の牢獄と言われていたロシアで革命政権のとった政策が民族自決権の無条件の承認でありました。この政策のもとでフィンランドやバルト三国が独立をしていったのであります。ソ連共産党は、こうしたレーニン時代のすばらしい功績にもかかわらず、スターリン以来の歴史はこれとは全く逆の政策を進め、世界の社会主義、共産主義の運動に歴史的な巨悪とも言うべき害悪を流してきたところでありました。その解散は我が国にとっても、また世界の社会主義、共産主義の歴史にとっても歓迎すべきであると考えられるわけであります。

社会主義の思想は資本主義の社会の矛盾を解決する思想として成長してきました。我が党が目指すものもこの日本社会の矛盾の解決であり、我が党の立脚点はこの日本の現実であります。この立場こそ科学的社会主義の立場であります。ソ連共産党の解散で日本共産党はどうなるのかとの御意見や御心配を耳にしますが、日本共産党は全く健在であることをまず申し述べておきたいと思ひます。

さて、質問に入ります。館山市政の当面する問題点として、既に通告しました5点についてお尋ねをいたします。

まず第1点は、お年寄りの家庭への給食サービスについてであります。ひ

ひとり暮らしのお年寄りにとっては食事は大変なことであります。前日の残り物で済ませたり、買い物に出るのが苦痛でインスタント食品ばかり食べているとか、また食べたり食べなかったりで健康管理ができないという方もあります。バランスのとれた食事をきちんととることがひとり暮らしのお年寄りによって何よりも大切なことであります。

鹿児島県の隼人町では — 人口約3万ほどの町であります、13年も前から朝夕2回の給食を毎日届けるという生活援護型の給食サービスに取り組み、今ではお年寄り100人に届けられております。料金は1食300円とのことで、社会福祉協議会が実施をしているのでありますが、この事業として調理と宅配を6人の職員で切り盛りをしております。この事業は栄養のバランスのとれた食事を安く届けるというばかりではなく、訪れる人の少ないお年寄りの安否を確認し、その心の支えとなることを目的としております。また、1日2回の接触や食事の食べぐあいなどからその健康状態を把握しているとのことでもあります。この事業はひとり暮らしのお年寄りを支える事業として大変に喜ばれ、老人給食があるからということで隼人町に転居してきたというお年寄りもいるほどであります。また、この給食事業でお年寄りの入院の抑制効果が働き、老人医療費の節減にもつながっているとのことでもあります。在宅福祉の柱として住民から大変喜ばれるとともに、大変重要な役割を果たしているわけであります。

この隼人町が13年前に朝夕毎日2食の給食を実施したきっかけは、ひとり暮らしなどのお年寄り597世帯を対象にアンケート調査をした結果、給食を希望するという方が64世帯84人、そのうち70人が年間無休を希望していることとありました。去る3月市議会の御答弁では、市としてひとり暮らしのお年寄り971人を対象にしてアンケート調査をしたところ、833人から回答があり、何らかの食事サービスを希望するという方は214人もあったということとあります。また、自分で食事をつくるという方は777人であり、ひとり暮らしにもかかわらず自分で食事をつくらないという方が既に56人もいることとなります。アンケートの結果は、食事サービス、このお年寄りへの給食事業へのその必要性を物語っていると考えます。今後食事サービス等に対す

る希望はますますふえることはあれ、減ることはないものと思います。一刻も早く事業の実施を求めます。

現にこのような毎日という生活援助型の給食サービスを実施している町や市も広がっております。全国的にはまだ少ないとはいえ、既に30を超える市町村で実施し、それぞれの市や町や村で — いろいろ実施の方法の違いはありますが、いろいろ工夫をして実施しております。ことしの6月から宮崎県の都城市でも実施に踏み出しました。

去る3月市議会の予算質疑の中での私の質疑への答弁では、アンケート調査結果の上に立って、ボランティア活動を尊重しながら、今後館山市社会福祉協議会と協議して対処を考えてまいりたいと答えておりました。その後既に半年がたとうとしているわけでありましたが、現在ボランティアの方々が月二、三回の給食を実施している現状ではありますが、その後の市の検討の経過及び結果がどのようなになっているのでありましようか、御説明をいただきたいと思います。

第2点目は、市長さんが選挙の際に公約をいたしましたお年寄りへの思いやりをもとにした高齢者の割引についてであります。市長、今年度の予算については既に前半澤市長の時代におおむね決められていたもので、市長になったからといって直ちに庄司色を強く打ち出せるものではなかったものと思います。いよいよこれから庄司市長の市長としての才覚が示される新年度の予算の作成に入られるわけで、市民にとって新年度の予算こそ市長選挙での公約の実施がどのように進められるのか注目しているところであります。

市長は選挙の中で、お年寄りはこれまで長い間苦勞をしてこられたわけですから、あらゆる機会を通じて優しくねぎらいましょう。お年寄りが伸び伸びと人生が楽しめるよう、例えばバス料金は割り引いてあげるとか、できるだけ手助けすべきですとしていました。私はこれに対し12月の市議会で、バスは難しいとしても、例えばシルバーパスというべきものを発行し、これを提示すれば市の各種施設の割引制度や免除制度を利用できるようにしてはどうかと提案をいたしました。市長は高齢者の方々や弱い立場の方々には優しい配慮と愛情が必要であり、具体的な対策については今後十分検討してま

いりたいとの御答弁でありました。その後このシルバーパスの提案についてはどのように御検討なされたのでありましようか、御説明をいただきたいと思います。

次に、ことしの3月に国立の博物館など国の施設について高齢者に無料化などの措置をとるべきとのことで、行政苦情救済推進委員会が関係官庁に意見を提出したとの新聞の報道がありました。これは国の施設についてのことでありますが、ここには行政に対して高齢者への温かい配慮を求める考え方が示されているものと思います。直接的には国の施設に対するものではありませんが、市の施設についても同様に考えるべきではないかと思うのでありますが、いかがお考えでありましようか。

次に、お年寄り世帯へのごみ手数料の無料化についてお尋ねをいたします。市はごみ手数料を徴収しておりますが、ひとり暮らしのお年寄りの世帯やお年寄り世帯ではもともと出すごみの量も多くありません。市長が言うとおおり、お年寄りはいこれまで長い間苦勞してこられたわけですから、あらゆる機会を通じて優しくねぎらいましよう。お年寄りが伸び伸びと人生を楽しめるようにできるだけ手助けすべきですとの精神に立つならば、この際お年寄り世帯への手数料などは無料化してはどうかと思うのであります。館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例によれば、市長は天災その他やむを得ない事情があると認める者に対して減免ができるとしています。その際の手続についても、市長が判断をすれば申請手続も省略できます。いかがお考えでありましようか。

次に、眼内レンズの補助の問題についてお尋ねをいたします。白内障になられた方にとって、眼内レンズは大変効果的な治療法ということが言われています。しかしながら、眼鏡、コンタクトレンズと同一視され、依然としてその手術や眼内レンズそのものが保険適用とされておりません。このため、手術費用の負担が高額に及び、なかなか手術が受けられないという問題もございます。こうした中で、保険とは別に市の事業としてこの手術費用の助成をする市町村が広がっております。既にこの10月から鴨川市でもこの眼内レンズへの助成事業を実施すると伺っております。また、昨日の新聞報道では、



木更津市議会の教育民生委員会で請願が採択され、既に実施している千葉、船橋、佐原の3市に続いて県内の12市町で実施の見通しになったとのことです。館山市としてもその助成を実施すべきではないかと思うのですが、どのようにお考えでありますか。

第4点は、仮称館山リゾートマンションについてであります。7月の1日から建築基準法の県の施行条例改定条例が実施となりました。仮称館山リゾートマンションの建築確認は6月24日付でおろされましたが、この条例が実施となる時点で既に工事中の建物でなければ、たとえ建築確認がそれ以前に出ていたとしても新条例は適用となります。この工事に着工とは基礎工事に着手したことを指すとされています。しかし、いまだにこの仮称館山リゾートマンションは、工事現場周辺を囲ったりはいたしましたが、基礎工事に着手していません。当然新条例が適用となり、この新条例に基づく審査が必要です。新条例では建物の周囲に4メートル以上の避難空地の設置を求めています。これが確保されているとは思えません。だとすれば、当然違反建築物ということになろうかと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

第5点目は、那古下水路の改修計画についてであります。この問題も昨年の9月議会以来たびたび取り上げてまいりましたので、市当局も現場についてはよく御存じのことと思います。過日この那古下水路と大芝排水路の接するところで大芝排水路が詰まるという事故があり、市の排水路の清掃班に大変お世話になりました。おかげさまで大芝地区の排水は流れるようになりましたが、この事故の原因としては那古下水路と大芝排水路の接合部分に構造上の問題がありました。それは那古下水路の底をコンクリ張りとした際にその分那古下水路の底を高くしたことであります。このため、その大芝排水路との接合部分では大芝排水路より那古下水路の方が約30センチも高くなっております。これでは十分な排水ができず、その接合部分にノロがたまり、何かの際に水路の出口をふさぐことになって当然であります。市の那古下水路工事は昭和40年代に行われたもののようでありましたが、この下水路工事が大芝排水路の流れを悪くしている原因ではないかと思うのですが、いかがお

考えですか。

また、現在今年度から5カ年計画で那古下水路の工事計画が進められておりますが、この計画の中でこれらの改良工事を実施すべきと思うのですが、いかがお考えでありますか。

以上5点にわたって御質問を申し上げましたが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1のお年寄りの家庭への給食サービスについての御質問でございますが、現在ひとり暮らしの高齢者等に対しましては、在宅福祉サービス事業の一環として、館山市社会福祉協議会においてボランティア、民生委員等の協力によりまして行われておりますが、家庭奉仕員による調理サービスも行われております。ボランティアによる給食サービス事業の内容等につきましてはボランティア、館山市社会福祉協議会、行政の3者で協議してまいりましたが、今後さらに協議を重ね、ボランティア活動を尊重しながらボランティアの養成、回数等について検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2の小さな第1点目、老人割引制度についてどのように検討したのかという御質問でございますが、現在公共施設の割引制度として鳩山荘老人割引利用制度、博物館観覧料免除制度及び老人福祉センター無料制度がありますが、今後各制度間の調整を検討してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、行政苦情救済推進委員会の意見についてどのように考えているかとの御質問でございますが、平成3年3月20日の朝日新聞によりますと、行政苦情救済推進会議において国の管理する有料公園や美術館、博物館などで高齢者の入園料の減免措置をとるよう求めたことを決め、関係省庁に文書で伝えたとありましたが、これは高齢者に対する優しい配慮であると存じます。

次に、小さな第3点目、老人世帯へのごみ手数料は無料化してはどうかと

の御質問でございますが、ごみ収集処理につきましては多額の費用がかかりますし、経費を一部負担することにより、市民の方々にも常にごみに対する問題意識を持っていただきたいと考えております。手数料負担が困難と認められる世帯につきましては減免措置がございます。

次に、大きな第3、眼内レンズの補助についての御質問でございますが、眼内レンズの挿入手術には御指摘のとおり健康保険が適用されておりません。全国市長会においても、患者負担の軽減を図るため、厚生省に対し健康保険の適用を要望しているところでございますが、現時点では確とした方向はいまだ示されておりません。県内でも数市が一定の条件のもとで実施または実施の方向にあると聞いておりますし、他県では県レベルでの実施の情報も聞いております。視覚は高齢者の自立には重要な条件でもございますので、国の動向を見きわめながら検討を進めてまいります。

次に、大きな第4、仮称館山リゾートマンションについての御質問でございますが、県の建築基準法施行条例が改正されまして、平成3年7月1日から施行されました。県の依頼によりまして、7月1日の着工状況の写真を館山土木事務所に提出してございます。建築の実態につきましては、建築基準法に基づき県が判断すべきものと考えます。

次に、大きな第5、那古下水路の改修計画についての御質問でございますが、小さな第1点、第2点とも一括してお答えいたします。那古下水路は昭和40年代前半に整備されたものでありまして、大芝排水路の取り付け等についての経過は不明でございます。当水路の改修につきましては、以前から上流部において地元町内会等より水路と道路の一体的整備の要望、これが出されておりますので、この整備を早期に行ってまいります。下流部及び大芝排水路の整備につきましては、現在実施しております下水路等の整備状況によって実施年次を決定してまいりたいと考えており、地元町内会長等にも説明してございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 給食サービスの問題であります、今の御答弁で

すと、社協あるいはボランティアの方々との協議を進めていくということで、回数をふやせないかという協議を進めていくということでありましたけれども、私はこの制度は今のボランティアの方々の負担をふやしていくということですべきものではないんじゃないか。というのは、この制度というのはボランティアの方の御努力というものとは違うレベルの問題ではないか。もうこれは公的な事業として本来行うものであって、ボランティアの善意に頼るというような筋の問題じゃないんじゃないかと思うんですが、そこの辺についてどのようにお考えになっておるのかお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） いわゆる在宅におきます給食サービスの基本的な考え方でございますけれども、これは現在行われている生活援護型の給食サービス、もう一つはいわゆるボランティアによるふれあい福祉給食サービスというような２面があるんじゃないかというふうに考えられます。この２つの方法につきましてどちらがいいかという問題になるわけでございますけれども、先ほど神田議員さんからお話がありましたとおり、生活援護型の給食サービス、全国で三十数カ所、またふえているということではありますけれども、全体としてはいわゆるふれあいの中での給食サービス、それが大半を占めるわけでございます。後者のふれあいの給食サービスの方法につきましても、これから館山市でもいわゆる公的なサービスと住民参加によるサービス、この両面を取り入れたものを考えていきたいということで、現在ボランティアの方々、また社会福祉協議会、また市も入れまして３者で協議をしているところでございます。

なお、国もこの給食サービスの普及につきましては — ようやくといえますか、本腰を入れて、全国的なサービスの調査を民間の団体に委託しまして、この秋ごろから調査したいというような情報も入っております。

そういうことで、私どもどちらにするかこれから慎重に検討してまいりたい。そして、早期によりよい給食サービスができるようにしていきたい、基本的にはそういうふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） ここは大事なところで、給食サービスといった場合に、ボランティアの方の給食サービスというものと生活援護型のサービスというのはやっぱり性格も意味もねらいも違うという — きちんと区別して考えていかなきゃいけないと思うんです。

私はこの単人町の資料も求めてみましたけれども、単人町では — 昭和63年度の資料でありましたけれども、町の補助金は実際にこの関係で支出しているのは1,000万なんです。そんなに館山市がこのあれで — 5億5,000万も大幅な黒字抱えている館山市の状況、今度の決算見ましても — 1,000万、これで85人の方のをやっているわけです。そんなに大きな財政的な負担ということのある問題じゃないんです。しかも、給食サービスというサービスは非常に高度な専門性が必要いろん — 老人介護とか、そういう問題とも違う。非常にやりやすい分野のことだということで、財政的な問題や専門性の問題、そういう点から見ても非常に取り組みやすい、しかも非常に大きな効果が発揮できる制度だと思うんです。

ですから、もう一步突っ込んで — これ今のお話ですと、公的なサービスとボランティアによる給食との間をどういうふうに進めるかを協議をするんだというお話でありますけれども、市自身がこれをやりたいという立場に立って話を進めなければ、ボランティアの方にとってはこれは一方的にボランティアにさらに負担をかけるというのが市の腹づもりなんじゃないかという、こういう疑念を生んでも当たり前なんです。ですから、私はボランティアの方に新たな負担を求めるといようなことは少なくともないんだ、今館山市が考えていくこの給食の問題については。そういう点をはっきりさせる必要があるんじゃないかと思うんですけれども、その点いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ことしの3月に館山市の社会福祉協議会と館山市と民生児童委員会で調べました給食サービスのニーズ調査、これの結果でございまして、約29%の人が一部負担なく毎月2回の要望、これが一番余計でございまして。そういうことも含めまして今後慎重に検討していきたい

いというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 一部負担がない方がそれはいいにこしたことはないんですけども、実際問題としては食事実費を負担するというのが今やられているところの多くの形で、大体 300円前後がいろんな制度見ますと多いようでありますけれども、29%の方が一部負担がないということを希望しているということでありましたが、逆に言うと70%の方が一部負担があってもいいということでありましょうから、今のお話ですと、この隼人町のやっている制度や仕組みというのは大変館山市にとっても参考になる。それを裏づける数字じゃないかなというふうに思います。

次の問題であります、公共施設の割引の問題であります、各制度間の調整を図って今後検討していくというようなお話であったかと思えます。

私は先日 — 3年前になりますか、岡山市視察に行ってみいましたけれども、ここでは65歳になられますと、お年寄り全員に — シルバーカードというものを全員に交付するんです。このカードには緊急の際の連絡先などが記入できるようになっており、これを提示すると市内の美術館や植物園、室内の温水プール、岡山城 — あそこには後楽園という庭園もありますが、その後楽園などの施設が無料で入場できる。そしてまた、市内の — 館山にはないんですけども、映画館が割引で利用できるとか、こういうことで、民間の事業者ともタイアップしながら、このシルバーカードということを通じてお年寄りに対する割引制度を市が実施をしているということで、大変わかりやすい制度だなと思うんです。

館山市が今それぞれ各ところで実施している内容もございまして、こうした形でお年寄りにシルバーパスというようなものを交付をするということで、長年の労苦に報いるというのは非常に具体的な形で示せるんじゃないかなと思うんです。これは市長さんが選挙のときに公約をなされたお年寄りへの温かい配慮という点から見ますと、すぐにでも新年度の中では実施できることではないかなと思うんですが、市長さんの御意見いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 貴重な非常に積極的な御意見ありがとうございます。政治は地方の政治、政治は社会福祉の、市民福祉のための政治だ。この場合の福祉は市民の生活の向上を願う幅広いものでございますけれども、そういう原点に立ちましても、特に長い間御苦労なさってこの現在の世の中を築き上げてこられました御年配の方々に対する温かい配慮が必要であると考えております。

ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 一応前向きのお答弁だというふうに受けとめておきたいと思います。

そういう点からいたしますと、お年寄りのごみの手数料の無料化というのはいささかひっかかるんです。ごみの手数料というその原理原則ということから、ごみに対する意識を持ってもらってごみの減量化を図りたい。それは一般論としてはよくわかりますけれども、しかしそこでさらに老人福祉というこれまでの考え方、今市長さんが述べられたようなお考え、こうしたものを加味して考えていくということからすれば、この際これは弾力的な運用を図って減免措置を適用していいんじゃないかなと思うんです。

先日私もなかなか — ああこういうふうに思っているんだなと思って感動いたしましたけれども、市内のある町内会では、町内会の総会でひとり暮らしのお年寄りの世帯、老人だけの世帯に対しては町内会費は半分にするということを町内会として決めて、割引制度を実施したですね。そういう町内会があるんです。非常にお年寄りへの温かい配慮です。町内会費は文字どおり受益者負担ですから、町内の運営にかかわる費用なんだけれども、そういうものを半額にしてでもこうしたお年寄りに報いようという温かい配慮が — この町内会の中にはそういう考え方があるということで、非常にすばらしいことだなと思ったんです。

そういう住民の今の気持ちや考えというものを十分配慮していただいてこのごみに対する問題についてもお考えいただきたいなと思うんですが、先ほ

どの御答弁ですと、減免措置は — 負担ができない世帯に対しては減免措置をいたしますというようなことでありましたけれども、その他特別の事情がある場合ということで、条例上は、その中には高齢者への福祉というような問題が入る余地はないというふうにお考えですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） いわゆるごみの手数料につきましてでございますけれども、御承知のとおり昨今の環境問題から発しましたこのごみの問題、大変大きな問題になっております。館山市だけでなく全国的な問題となっているわけでございます。国におきましても、今回通産省関係のいわゆるごみリサイクル法案が通りまして、このごみの問題と本格的に国レベルで取り組んでいく新しい法律もできましたし、また現在継続審議になっておりますが、いわゆる廃棄物処理の法律も今また継続で審議をされようとしているわけでございますが、この中でやはり新しい — 継続審議になっている厚生省の中でも、やはり新しい部分といいますか、このねらい — 法律のねらい、改正案のねらいは、市町村は企業や住民からある程度処理手数料を積極的に徴収するんだというような方向も打ち出されているわけでございます。

そういう中で、お年寄り世帯 — いわゆる画一的なものでなくて、その生活状態等を勘案しながら、いわゆる納付組合等の協議を重ねながら当面実施していきたいというふうに基本的には考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そういうお考えがないということは今の御答弁の中で何か感じられますけれども、これは新しい予算の論議や何かの中でまたお考えを改めていただきたいなと思います。

眼内レンズの問題に移りますが、私最近鴨川市を非常に注目をしているんですが、国保は引き下げますとか、なかなか館山市がやれないことを次々に打ち出してきているわけですが、福祉の問題でもデイ・サービスがもう実施になっているとか、もう館山市が今までやりたいやりたいといって、今まで検討しますということは何回この場で繰り返したかわからない問題を実施



をしちゃってるわけなんです。この眼内レンズの問題も、いち早く鴨川市ではこの10月1日から実施するというふうに伺っておりますけれども、市はこの実施の内容について承知しておりますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 鴨川市が10月1日からこれを実施したいということは承知しております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 館山市もおくればせながらということになるのではないかなと思うんですが、市として検討をするというお話でありますけれども、これは実施をするということを前提と考えていいんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 市長の答弁にもありますけれども、問題は健康保険が適用されるかどうかというその見通しがどうかということでございます。そういう状況を見ながらやはり実施するかどうかを決めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そうすると、健保の適用が見込めないとすれば実施するということでいいですね。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 私どももその時点で考えていきたいということでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） その時点で考えていってというのは先ほどの話と大分違うように思うんですが、見きわめをしてということでもありますから、そうなりますと、この健保の適用、これはいつになるか待ってても、ずっと待ってても、5年でも10年でも待っていることだってあるんです。いつまで待つんですか。その見通しというのはいつまでの検討期限ということで考えておられるのか。

現にもう多くの自治体が実施に踏み出そうという時点なんです、今。鴨川が10月1日だ。きのうの — 13日の木更津の方でもそういう議会での議決がされたようでありまして、袖ヶ浦でもしたようでありまして、君津でもしております。こういう状況で、県内のこの県南の地域の中にあっても議会でも次々に決議をされて、具体的に実施を前提として行政当局も踏み出し始めているんです。そういう中で、いささか館山市は今の御答弁ですと大分後ろ向きではないかなという感がするんですが、その見きわめというのはいつまでを考えておるんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 厚生省の考えとか県の考え一応聞いてございます。しかしながら、これがはっきりまだいたしておりません。そういうことで、これが方向がはっきりした時点で見きわめて前向きに検討していきたいということでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そのはっきりした時点というのはいつがはっきりする時点なんですか、そこが聞きたいことなんです。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 繰り返しになりますけれども、国、県もその時点がはっきりわからないのが実情でございます。そういうことで、その時点が見きわめてはっきりしたときに決めたいということでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） はっきりわからないはっきりした時点のために私たち待たされるということになるんですけれども、何かこれじゃちょっとよくわからないんです。本当ははっきりわかりません。

市長さん、現にはかの市町村が次々に — 周辺の市ですね、実施を始める。こういう中で、少なくとも来年度という中ではこのことを前提として考えざるを得ないんじゃないか、新年度 — 来年の4月以降の年度については。この辺いかがお考えですか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 先ほど申し上げましたとおり、視覚——目というのは人間の自立にとりまして非常に大事な要件でございます。大事な問題でございます。でありますから、これは前向きに検討させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） マンションの問題でお話伺いたいんですが、これが違法であるか違法でないか、違反建築物かは県が判断するんで、おらはわからんというような先ほどの御答弁、言う立場ではないということだったかと思うんですが、現在市の方にもこの建物についてのいろんな書類が出ているかと思うんですが、必要とされる4メートルの空地——新条例ですね、これは確保されておりますか。

また、避難上有効なバルコニー、その他これらに類する施設を設けることと新条例では規定されていますが、これらも確保されていますか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えします。

新条例の場合の4メートルが疑問でございます。新条例の4メートルが確保、一部されてないと思います。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 新条例が適用になるかならないかという問題が前提としてあるんですが、現状では4メートルはない。一部そういうところがある。抵触する可能性がある、新条例が適用になれば。

それからまた、避難上有効なバルコニー、その他これらに類する施設を設けること、避難階以外は。こういったものも確保されておりますか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 市の建設担当に聞きましたら、バルコニー等は確保されておるということでございますけれども、これももう一度建築確認を照合してみたいと思います。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 新条例が — これは法律上の解釈ですけれども、建築基準法のもとでは、建築確認に当たって条例あるいは新しい法の改正、これの実施日ということについて、実施日時点で工事中でなければ、工事に着手していなければ新条例が、あるいは新しい法律が適用になる。これは法律の解釈としてそういうものだということで理解してよろしいですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 県の見解をちょっと申します。着工を認めるかどうかの可否は市で判断すべき問題ではない。また、新条例に関する事項についても県の問題であり、県で審査、判断すべきことである。これは先ほど市長が言っておりますけれども、本件については行政不服審査請求が出ているので、建築審査会の結論が出ないうちに県としての判断も出せないということが県から市へと来ております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 県がそうやって判断ができないということを言っている。ですから、市としてもこれを — 市の立場、態度なりを打ち出すことはできないということだろうかと思います。大変苦しいお立場だと思えますが、市は同時に市営住宅の管理者という — 言ってみればこの建物ができることによる被害者という — 民法上の被害者という立場でもあるというふうに思うんです。そういうことから、そういう立場で考えた場合にはどうあってほしいということはあるんじゃないかなと思うんですが、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 神田さんの御質問に対するお答えにならないかも知れませんが、市営住宅の住民の皆様の立場になれば、日陰をつくるのが少しでも少なく、快適な住環境でありたいと考えておりますが、一方建築確認事務を行う行政担当として、以上の発言で回答と御理解願いたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） この仮称館山リゾートマンション、私は明らかに新しい県条例に違反をするということになって、新たな建築確認の手續等をすべてやり直す必要があるというふうに考えているわけですが、今の御答弁ですと、市としてはこの問題についての見解を差し控えたい、また言える立場じゃないという御答弁だったかと思います。大変突っ込んだ御見解がいただければと思ったわけですが、大変残念なことだと思います。

那古下水路の改修計画についてであります、今年度からの5カ年計画で那古下水路の改修を行うということになっておりますが、上流部分の工事が済み次第この下流部分の工事に取りかかりたいということでありましたが、5カ年計画の中では400メートルの工事を実施するということで計画化されております。ということを考えますと、この5カ年計画の中では、これは那古下水路の下流部分について実施される、こういうふうに理解をしてよろしいものでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） この那古下水路の整備期間は――上流の場合は1億5,000万から7,000万ぐらいかかるということでございます。そんなことで、三、四年はかかるだろうということですので、5カ年計画になれば下の方も整備できるんじゃないかしらと思いますけれども、何としても予算を少しでも多くいただいて、そこで少しでも早く実施したいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そういたしますと、三、四年かかるということは、最悪の場合4年かかるということになりますと、5カ年計画であと1年しか残らないんです。常識的に考えると、そうすると5年間でできるのは上流部分の200メートルだけで終わってしまうんじゃないか、こういう危惧を感じるんですが、そういう危惧を感じておられますか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 計画的にはそのようになっておりますけれども、先ほども申しましたとおり、担当部とすれば少しでも予算をいただいて、早

いところ上の方の交通の利便も図りたいということでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） これは大分大きな予算がかかわる話であります。しかし、市が5カ年計画で掲げたことでもありますから、5カ年計画は市民に対するある意味じゃ公約でもありますから、これはぜひとも繰り延べをすることなく、この5カ年計画の中で当初計画の那古の下水路 400メートルは工事を行うんだ、こういうことで予算的にも配慮をしなければならない。予算がないからできませんよという、そういう言い方はしないというふうにしていただきたいんですが、市長さんいかがですか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 精いっぱい努力します。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） では、精いっぱい努力するようお願いいたします、終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質問を終わります。

次、7番議員鈴木順子君。御登壇願います。

（7番議員鈴木順子君登壇）

◎7番（鈴木順子君） 私は既に通告いたしました5点について御質問をさせていただきますと思います。

まず、第1点目の御質問でございますが、平和都市宣言に対しての市長の所見を伺いたいと思います。この問題は以前にも何度か先輩議員同様の御質問があったと思いますが、この夏我が党がお手伝いをしながら、ことしも語り継ごう、走り継ごう、広島、長崎の心をと反核平和の灯リレーが行われ、当館山市でも出発式に対して市長自ら激励の言葉をいただいたわけですが、その際要請の1つに平和都市宣言をお願いしたいとありました。この平和運動には、世界唯一の被爆国である我が国の不幸にも被爆を受けた被爆者の方々がもう時間がないと語り始め、被爆者援護法を求め、核の廃絶を求め、世界平和をと訴え参加されています。市長も平和なまちづくりに努めるとお考

えのようですので、市長のこの宣言に対してのお考えを伺いたいと思います。

次に、大きな2点目、教職員の勤務条件の改善などを伺います。まず、小さな1点目でございますが、教員の異動の状況はどうかという問題でございます。最近の教員の異動が非常に早いテンポでされているのではないかと思います。父兄の間からも、やっとなれたと思ったらもう先生異動ですと言われる、自分たちも同様に感じ、大変困っていると答えている教員が非常に多くいます。また、この回転の早い異動に対して、教員がだれも持っている教育熱をそがれてしまう、そう訴えています。中学校に関しては専門教科との兼ね合いがあるとは思いますが、しかしこの問題は今さら出てきたわけではありません。また、平成2年度の小学校の教員の異動に至っては3年目で異動した教職員が非常に多く、何でなんだろうなという気持ちを持たせます。また、一、二年で異動の教職員は本人の希望ということで受け入れられていただいているようですが、異動をしたほかの教職員本人の希望をお聞きになった上での人事異動だったのでしょうか。どういうお考えのもとにこの人事異動をなさっているのかお伺いをいたします。

次に、小さな2点目、代替教員の配置は充実しているかどうかでございますが、現状ではどうなっているのでしょうか。産休、病休、育児休、こういった制度ありますが、現実には休めばほかの先生方に迷惑がかかる、病休や育児休無理をしてとれないでいる先生方がたくさんいます。代替教員が少ないからじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。産休の教員は半年前に推薦するようになっているはずですが、その間本当に真剣に探されているのでしょうか。この現状を踏まえた上で、これからどうしてこの問題とかわっていくのかをお伺いいたします。

次に、大きな3点目、相生橋のかけかえ工事における橋の構造についてでございますが、相生橋は既にかけかえ工事が計画され、平成3年度には設計委託をすると聞いておりますが、橋の耐用年数どの程度、また橋の構造はどのようなになっているのでしょうか。

この問題につきましては、先輩議員が過去に質問をされている経緯がございますが、利用者の多くが、また地元住民の方々が学童の通学路であること

を心配され、安全を十分考えた上での設計になっているのだろうかと訴えておられます。交通量の多いこの橋には通学路であることを十分認識された上で設計をされることを望みます。当初の計画ですと、路側帯程度のものをお考えのようでしたが、歩道をつけてほしいという要望におこたえできるかどうかお伺いをいたします。

次に、4点目でございますが、県道館山―大貫―千倉線拡幅工事に伴い、青柳、南条地区の下水路整備についてでございますが、この県道と隣接いたします各地区の住民の方々が長い間の願いでもあったこの拡幅工事にはかなりの期待を持って見詰め、工事の早い時期での着工をと願ってことし署名運動をされたわけですが、この県道拡幅工事は県のお仕事でもあるわけですが、どのような計画であるのかをお伺いをします。

また、この道路は水田と隣接すると思うのですが、この道路拡幅工事するには地権者の方々との話し合いがなされていると思うのですが、農水路の問題、また青柳、南条地区の生活雑排水を流す下水路の問題があります。この工事をするに伴って市はこの地区の下水路整備をしていただけるのかどうかをお伺いいたします。この地区の方々、この問題では先が見えないまま何年も生活をされてきて、この拡幅工事に伴い何とか下水路の整備をお願いしたいと強く願っています。

次に、第5点目、在宅介護のケアの充実はされているかどうかでございます。6月議会では大まかなことをお聞きいたしました、いま一度質問をさせていただきます。

日本人の10人に1人が高齢者と言われている現在、総務庁が介護を必要とする高齢者への福祉対策が不十分だと発表し、要介護高齢者の実態をもっと的確につかんで対策をとるよう厚生省に勧告をいたしました。これは総務庁の行政監察の結果だそうですが、自立を助ける目的で医療サービスを提供する老人保健施設でも、家庭での介護体制が十分でないことなどから家庭復帰につながった人は半数にとどまっており、人材確保など在宅者対策を充実させるよう求めたものです。できれば自宅で暮らしたいと思っても、家族の負担は大き過ぎ、疲れ果て、本人の望みを見捨てる形で病院への入院また



は施設への入所へと追い込まれているのが実情ではないでしょうか。

高齢者福祉の権限が市町村に移るわけですし、高齢化が進んでいる館山市では、今の状態では介護されている方は疲れ切っています。高齢者福祉を担う主役となった市町村の役割は大きくなりましたが、介護する方、される方が安心して暮らしていけるような具体的ケア策を進めてほしいと思います。

全国でもさまざまな地域、自治体で問題になっており、長野市の行ったヘルパー 103人の全員職員化、また伊勢崎市の特別養護老人ホームの介助職員を男性職員を含め25%もふやし、寝たきり状態から50人全員を1年がかりでなくしていったなど報告がされています。この自治体の方々口をそろえて出る言葉は、それでもヘルパーの数は足りていないということです。館山市でも入浴サービス、家庭奉仕員が13人という御回答でしたが、何人の方が入浴サービスに携わって、また家庭奉仕員の方は何人でやっていらっしゃるのでしょうか。

6月議会では利用者のニーズに合わせて要望にこたえていくということでしたが、利用したい方はどのような手順でお願いができるのか御存じのない方がいらっしゃるんじゃないんですか。この制度をどのようにしたら皆さんが利用できるのかお伺いをいたします。

また、再度お伺いをいたしますが、1人の方が入浴サービスを受けるには何日に1回と具体的な日にちをお伺いいたします。

在宅介護をされている家族の都合でショートステイ制度がございますが、この制度大変ありがたいのですが、非常に制約が多いと聞いています。利用しづらくなっているんじゃないかと思います。せっかくの制度ですから利用しやすい工夫をしていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。市の基本計画に介護を必要とする老人対策を確立するとうたっているわけですから、前向きな御回答をお願いいたします。

お答えにより再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木順子議員の御質問にお答えいたしま

す。

大きな第1、平和都市宣言についての御質問でございますが、世界の永久平和と安全は国民だれしもが願ってやまないところでございます。我が国におきましても恒久的な平和を基本的な姿勢としておりまして、それを遵守することは当然のことでございます。私のみならず、市民だれしもがこのことについては御理解いただいていると考えます。当面宣言を形に出すかどうかについては検討したいと思います。

大きな第2の問題でございます教職員の勤務条件の改善等の第1、教員の異動の問題、代替教員の配置問題、これにつきましては教育長より答弁させていただきます。

次に、大きな第3、相生橋のかけかえ工事についてでございますが、議会並びに地元住民皆様のかねてからの御要望によりまして、かけかえに向けまして現在調査設計を行っております。橋の構造でございますが、橋の長さ17.5メートル、幅員 8.5メートルのコンクリート橋を計画しております。

なお、幅員 8.5メートルのうち、学童等の歩行者の安全対策としまして、片側に2メートル程度の歩道を設置する方向で検討しております。

次に、大きな第4の一般県道館山―大貫―千倉線道路改良計画についての御質問でございますが、この県道は幅員が狭く危険なため、早期の整備を館山市及び関係区長を初め地元住民 1,068名から成る陳情を県及び国に繰り返し要望しているところでございます。8月23日も行いました。ただいま県と協議中でございますが、館山土木事務所の説明によりますと、主要地方道館山―白浜線道路改良事業交差部から既に拡幅されました古茂口地内、けしご橋まで約 2.5キロメートルの間を道路幅員10メートルに拡幅しようとするものでございます。

排水路の整備につきましては、関係者と十分協議の上、現状の機能を損なわないよう対策を講じて実施すると伺っております。

次に、大きな第5の在宅介護者のケアの充実はされているかどうかとの御質問でございます。ホームヘルパーにつきましては、家事援助中心業務を10人の職員で対応しております。

入浴サービスにつきましては、移動入浴車にて在宅入浴を入浴ヘルパー2人、看護婦1人、運転手1人のスタッフで、対象者の健康面をチェックしながら月1回程度の割合で実施しております。利用に当たりましては、医師が入浴可能と認め、伝染病疾患を有していないことを条件としておりますが、所得制限等は設けてございません。

なお、各種事業を推進していく上で、職員については今後も需要に応じ配置してまいります。

ショートステイにつきましては、現在館山特別養護老人ホーム、館山養護老人ホーム、三芳光陽園、ひまわり園と委託契約を結び実施しております。申し込みでございますが、福祉事務所に申し込みになれば即刻対応いたします。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 教職員の勤務条件の改善等の御質問でございます。私の方の所管事項でございますので、私の方から答弁させていただきます。

小さな第1点目、教職員の異動につきましての御質問でございますが、人事権は千葉県教育委員会にございまして、その異動方針に基づき人事が行われているわけでございます。また、館山市教育委員会の意見も十分に反映されるようお願いいたしております、人事異動が行われております。

在籍2年から3年の短期間での異動が行われているとの御質問でございますが、本人の希望等を十分に聞いて行っております。平成2年度末人事異動教職員の平均在籍年数は小中学校とも5.5年でございますので、それほど短期間の異動が行われているとは考えておりません。

次に、小さな2の代替教員の配置は充実しているかという御質問でございますが、代替教員の配置につきましては、産前産後休暇、病気休暇等が安心してとれるよう、代替教員の配置につきましては学校運営に支障ないよう十分配慮して行われております。平成2年度の場合、産前産後休暇9名、育児休業8名につきましては全員代替教員を配置いたしました。なお、長期間の

病気休暇2名についても代替教員を配置しておりますので、特に問題ないと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） まず第1点目ですが、この平和都市宣言は県内——千葉県内29市中25市が既に宣言をされております。宣言をされていない市がわずか4市。これはことし1月の調査でございますが、平和の灯リレーの出発式で市長は、二度と戦争はあってはならんことだ。平和の喜びをかみしめ、永久に引き継いでいかなければならない、こう話されました。また、市民が安心して生活できる常に平和なまちづくりに努めるとお考えですね。平和に対しての市長のお考えですと、市長自ら平和都市宣言をされてもいいんじゃないか、そう思いますが、この問題につきましては期待をして見守ってきたいと思います。

次に、大きな2点目、小さな1点目ですが、教員の異動の状況はどうかということですが、私どもの調査ですと、ほとんどの教員が最近——特に四、五年前から異動の回転が早くなった、そう答えています。また、以前は異動に際して1月か2月ごろになると要望を聞いてくれたりした。最近では3月の15日ないし16日、この日になるとどここの学校へ異動ですよと突然の内示がある、こう答えています。教員の立場から、よりよい教育をやっていくには、2年や3年でやっとその学校、地域とのかかわりなどがわかり始めるので、せめて2回りぐらいしてから——というのは6年ないし7年ぐらいしてから異動をさせてもらいたい、そう答える方が大変多かったです。永年7年、同一市町村内10年、新採3年、こう言われていますが、この基準どおりに動いているのでしょうか。

次に、小さな2点目、代替教員の配置についてですが、教育委員会のお考えですと、特に問題はない、そうされていますが、現実に携わっている教職員の方々が代替教員の方が見つからないということで非常に休みづらくなっているということはこれ現実です。四、五年前にはたくさんいたはずだったんだけど、いつからこんなに少なくなったんだろう、そう言っている方

もいらっしゃいます。この代替教員の人数は現在何人ですか。なぜ少なくなったんだろうという疑問もあります。

また、新採用の先生方の教員研修、1週間に何回のペースで行われているのでしょうか、その際の補充はできているのでしょうか、御回答をお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 第1点の人事異動の年数の問題でございますけれども、人事異動は県の基本方針でございます、それに基づく実施細目というのがございまして、それに基づいて行われておりますので、それほど無理な人事はないだろうと私は考えております。むしろ異動を希望しない職員の方が多くて、1つの町には10年、1つの学校には7年、それ以上おれませんよ、そういうような規定がありまして、その方針を貫くのに非常に困っているような状態でございまして、もう短期間——なるべく3年間は異動させないというのが基本方針でございますから、そういうような問題は私の方に聞こえておりません。ただ、結婚をしましてどうしても他の方に行かなきゃならないとか、どうしても一緒になるという特別な場合は2年ぐらいでも異動することはありますけれども、基本といたしましては3年間は必ずいていただくんだ、こういう方針でやっております。

また、急に非常に遅くなって言われたんだということをおっしゃいましたが、大体異動の打ち合わせは1月から行っておりますから、私の方は校長と2回も面接いたしております、その間校長は各先生方の希望を聞いて實際しておりますので、それほど遅くなるとは——ただ内示というのは——異動というのは、人事というのはなるべく漏れないことをモットーといたしておりますので、正式な内示が来るまでは正式には伝わらないだろう、このように考えております。

それから、代替教員がどうなっているんだということ、代替教員というのは確保しております。千葉県教員委員会安房地方出張所の方で確保しておりますので、我々の方でそういうような長期休暇をとる者が出てきた場合はお願いいたしまして配置いたしておりますので、それほど迷惑をかけていないん

じゃないか。また、もし休みづらいとか、そういうような休暇をとりづらいとかいうことがあれば、これまたよく調べてみたい、こう考えております。

それから、新採用教員は御指摘のとおり非常に研修が多いわけでございます。年間60日研修するということになっておりますものですから、非常にそのために初任者にも迷惑かけておるかと思えますけれども、やはりよりよき教師になってもらうためには、やはり大いに研修をしていただいて、そして立派な教師になってもらうことが教育上大事な問題ではないかと思っております。そのための非常勤の講師も採用いたしております。また、初任教員が1つの学校に2人いた場合は、1人の別な先生を配当いたしまして、支障のないように努力をいたしております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 代替教員は何人かという御質問ですが、そちらの方でおわかりになりませんか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 何人かということでございますが、代替教員は——その都度その都度そういう長期休暇の者出てきた場合に代替教員をお願いしているわけでございまして、それは私の方ではわかりません。出張所の方で恐らく何人かは用意しているんじゃないかと思っておりますけれども。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 確かに県の教育委員会、あと安房出張所の方の権限というような問題があるようですが、ただやっぱり地元の教育委員会がこの代替教員が何人いるかということがわからないようでは大変困ると思うんです。

それで、先ほどからの御回答いただいておりますが、どうも私の方の調査とは全然違うような内容が返ってきています。もう一度こういう調査というようなことをやったらどうでしょうか。

それで、この2点につきましては、教員の異動に対する人事権、代替教員

の配置は県の指導等いろいろあると思いますが、現場で困っているんだ、例えば県の教育委員会に対してそういうような要望をなされるような、そういったようなことをこれからぜひやってほしいと思います。教員の方が現在は大変疲れ切っている状態で、仕事量も大変多いと聞いております。とても市の提案している1人1人の個性豊かな行き届いた教育はできない、そう多くの先生が訴えております。こういうことを踏まえた上で、より事実調査というか、そういうことを含めてお願いをしておきたいと思います。

次に、大きな3点目、相生橋の構造についてですが、この問題につきましては地元住民や利用者の長い間の要望であったわけですが、歩道をつけていただけ、そういうことですので了解をいたしました。

次の4点目ですが、この道路ができるらしいと地元の人たち耳にしてから、この地区で現在下水路に悩んでいる方々何とか整備をしてほしいと待ち続けているんです。やっと光が見えてきたと思っているそういった方々の気持ちを十分御理解いただいて、強く要望をいたします。

次に、第5点目ですが、在宅介護のケアの充実はされているかという問題ですが、この問題は年々切実になっていまして、家族だけでは対応できないで、多くの方が悩んでいる状況です。この制度必要に迫られたときにどう行政が対応できるのかということが問題だと思いますが、全国で在宅で寝たきりの人が二十六、七万と言われているんですが、現在市で派遣制度を受けている世帯は何世帯ありますか。

私の方の調査ですと、入浴サービスを受けている方が1カ月強から1カ月半、そのくらいの程度で利用されているようですが、もう少し回数をふやしてもらいたい、そういう要望がかなりあります。ただ、現在のヘルパーさんの人数ではとても回数をふやすことは困難だと思いますので、ヘルパーさんの増員について――この問題は6月議会で先輩議員の質問に答えていらっしゃいますが、実際にもっと回数をふやしてほしいと思っていらっしゃる方がいるわけですから、専門的な知識を持った人、そういう方々を含めたヘルパーさんの増員はできるんじゃないですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 家庭奉仕員 — ヘルパーさんの増員についてでございますけれども、市長が御回答いたしましたとおり、今後の需要に応じて配置していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 派遣世帯は何世帯でいらっしゃいますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 現在38ケースでございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） ヘルパーさんの増員は需要に応じて、そういうことですが、私の感じますところは、需要を本当に御存じなのかな、調査をされているのかなと思います。こういうことを調査なさっていますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 在宅看護の調査でございますけれども、福祉サイド及び保健サイド、いわゆる保健婦さんを中心とした在宅看護の状況、また福祉では民生委員さんを中心とした調査、そういうところでニーズは把握しております。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 実際に私も何軒か知り合い等ございましてお邪魔いたしました。こういった制度を知らない方が何人かいらっしゃいました。私の方でお教えしたわけですが、こういったいろんなネットワークがちゃんとできていないんじゃないかな、そういうような感想があります。

また、そういうことを踏まえた上で、入浴ヘルパーさんに関しましても、1日に2軒回ると聞いていますが、この入浴介助はとても大変なことなんです。これ以上の回数を3人 — 運転手さんを含め4人になりますが、やることはこの人数ではとても無理です。そして、現在でもそのヘルパーさんたち、1人の方が休むとサービスを受ける側にしわ寄せが来てしまう、そういうことになっているんじゃないかと思いますが、ヘルパーさんも大変な仕事をかなり無理をしながら体にむちを打ってやっているわけですから、ぜひこの方



々にやはりしっかりとした身分保障をした上でこのヘルパーさんに対しての増員を今後お願いしたいと思います。

以上、終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で7番議員鈴木順子君の質問を終わります。

次、23番議員石井昌治君。御登壇願います。

（23番議員石井昌治君登壇）

◎23番（石井昌治君） 私は今定例会に提出されました議案9件の審議に先立ちまして、当面する館山市の中で通告いたしました3点について質問するものであります。庄司市長は就任して今日に至るまで1年に満たないにもかかわらず八面六臂の活躍をされておられ、館山市百年の計のために御同慶にたえないところでありますが、私の質問に対してどうか前向きに答弁されることを期待し、以下質問に入ります。

質問の第1点は、館山市に総合福祉センターを設置すべきではないかということについてであります。庄司市長は総合福祉センターの設置について、昨年秋の市長選に立候補された際、市民に対してその必要性を訴え、もし当選したら自らの手でその実現を公約されたと承っております。その事実があったかどうかまず明らかにしていただきたいのであります。

また、市長は館山市社会福祉協議会との懇談会の際、この団体の設置に対する強い要望にこたえて早期実現を検討する旨を言明されたとも聞くのであります。その事実関係を明らかにしていただきたい。

今館山市におきましては、60歳以上の人口が1万4,063人、総人口に対して25.9%、4人に1人の割合になっているのであります。まさに高齢化社会が本市に訪れていると言っても決して過言ではありません。物資的な豊かさは館山市にも訪れています。そして、今や本市でも物資の豊かさから精神的な豊かさを求める市民が多くなっていることを認識しなければならないと思うのであります。こういう観点からも総合福祉センターの設置の市民の要望は日を追うごとに高まっており、この点について市長の御所見を承りたいのであります。

質問の第2点は、福祉バス購入についてであります。6月の定例会でも同

僚の辻田議員が発言されましたが、私は社会福祉協議会から出された要望をさらに拡大して、多目的バスとして広く市民が利用できるようにしてはどうかと考えるのであります。これに関する市長の見解を求めるものであります。

第3の質問は、那古地区にあります館山市立純真保育園の施設の充実と、市内保育行政推進の上から年次的施設の改善方法についてであります。単純に那古地区と船形地区を比較するとき、船形地区の保育園の近代化に伴いまして、那古地区の純真保育園は余りにも貧弱に見えるのであります。この点に関して市長の御所見を賜り、あわせて市立保育園の今後の整備計画書がありましたら年次的にお示しいただきたいのであります。

以上で質問を終わりますが、御答弁によりまして再質問をお願いします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの石井昌治議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の福祉センターの建設についての御質問でございますが、地域ぐるみ福祉を推進する上で、地域社会を基盤として、行政施策と民間福祉活動との公私協働によりまして、地域の福祉需要にきめ細かく対応できる総合的な福祉施策の推進が必要と考えております。そのための拠点整備として、ボランティアセンターを含みます福祉センターの建設は重要な課題と認識しております。このことにつきましては、社会福祉協議会及び多くの市民からの声も寄せられております。私としてはなるべく早くと考えておりますが、市民の生活環境や都市基盤の整備促進とあわせ総合的に判断していかなければなりませんので、もう少し時間をいただきたいと存じます。当面市民センターを有効適切に活用しながら内容の整備充実を図ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、福祉バスの購入についての御質問でございますが、本件に関する事項といたしましては、6月定例議会に大型バス購入についての陳情書が提出され、継続審査となっているところでございますが、庁内全般にわたってその利用需要について調査いたしましたところ、相当数の利用が

見込まれますので、市全般の公的業務について使用するバスとして前向きに検討してまいりたいと存じております。

次に、大きな第3、市立純真保育園の改築についての御質問でございますが、改築後21年経過しておりますが、木造建築の温かさを生かし、安全管理に配慮しております。今後状況を見ながら施設整備につきまして検討してまいりたいと考えております。

なお、市立保育園の今後の整備計画につきましては、平成3年度、中央保育園に合併浄化槽の設置、園舎塗装3園、平成4年度に純真保育園に合併浄化槽の設置、平成5年度、園舎塗装1園、平成6年度、旧兵舎古材で建築いたしました館野保育園改築等を計画しております。このほかに保育室等の冷暖房機設置につきましても検討してまいります。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 石井昌治君。

◎23番（石井昌治君） まず、総合福祉センターについてであります。

県のさわやかハート計画の中で県内15カ所に老人福祉関係の施設を設けることになっているのであります。この15カ所の中に入れられないのかどうかお伺いいたします。

さらに、厚生省でも地方の高齢化社会に対応して施設を考えていると承っているのであります。この計画との関連で考えられないものかどうか。

以上2点についてお答えいただきたいのであります。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 県の地域保健福祉センターでございますけれども、この中には館山市は入っておりません。

また、国の関係でございますけれども、いわゆる介護センターと申しまして、これが計画であるわけでございますけれども、これについては館山市はいわゆる検討課題になっておりますので、現在のところは計画はございません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 石井昌治君。

◎23番（石井昌治君） 将来の問題として市長は十二分に認識され、来年度予算の編成に当たって調査費の計上を要望して、次の再質問に移ります。

福祉バスの要望にこたえて、市長は私の提案を入れて、多目的バスの購入の方針という答弁をいただきましたが、来年度予算に計上されるかどうか、確認の意味でお伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 非常に積極的な御意見でございます。私もこの市民の要望、それから使用頻度、そういうものを検討しました結果、前向きに検討してまいりたいと思います。もう少し時間をちょうだいしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 石井昌治君。

◎23番（石井昌治君） 来年度多目的バスが実現するということで了承いたしたいと思いますが、よろしく願います。

最後に、純真保育園と市内の保育行政についてであります。既に了承いたしました純真保育園は新設されてから21年を経過し、船形と比べると著しく貧弱になっております。当面は部分的に改修するとして、将来は近代的に建てかえることを要望して、質問を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で23番議員石井昌治君の質問を終わります。

次、3番議員島田 保君。御登壇願います。

（3番議員島田 保君登壇）

◎3番（島田 保君） 議員として初めての質問でございます。研究不足もございませぬけれども、お聞き苦しい点もあろうかと思ひますけれども、しばらく御清聴をお願いいたします。

既に通告してあります3点について質問させていただきます。1番に農道の整備促進について、そして2番が農振地域の見直しと農地の流動化の推進について、そして3番は海洋性リゾートタウン計画の近況と今後の対応についてお伺いをいたすものでございます。

我が国農業を取り巻く環境は、米の生産調整、農産物の価格の低迷、農畜産物の輸入自由化等一段と厳しさを増してまいりました。その上、農業者の高齢化、後継者不足、そして他産業への流出という最悪の事態に直面してお

るわけでございます。農業の振興の一環としまして、私は農道の整備促進——すなわち農道の舗装化の促進をお願いしたいわけでございます。現在市道の方は全面市負担でほとんど舗装がなされておりますけれども、農道の方は地元負担で少しずつやっている現状は、依然として遅々として進まないのが現状でございます。この農業者の減少している現在、経費の面から、そして労力の面から1人、2人でできる問題ではないこの農道の問題につきまして、ぜひとも市当局の御理解と御協力をお願いするわけでございます。

道路は産業経済上欠くことのできない大動脈でございます。地域の特性を生かし、農林業の振興は——農道の整備、圃場整備等の生産基盤の施設整備が館山市農政の基本政策でございます。現在市の農道舗装率が——総延長176キロ、うち舗装された道路が83.6キロでございまして、47.5%でございます。まだ50%に満ちておりません。

そこで私が要望したいものは、農林業用施設等補修用材料交付額の増額についてお願いをしたいわけでございます。この点につきまして市長さんの明確な御答弁をお願いいたします。

農業者の高齢化が進み、後継者不足と——自己出費での舗装がなかなかできないのが現在の農村地域全体の実情でございます。市からの資材交付をいただきまして、そしてみんなが力を合わせて、農家組合等が中心になって、共同作業によって舗装化ができるわけでございます。今すぐやらなければ、これからは後世までもできる可能性のない地域が多々見受けられます。どうぞ早い機会にこの農道が完備され、将来に希望が持てる農村を願ってやみません。

次に、第2点としまして、農振地域の見直しと農地の流動化の推進についてお伺いいたします。昭和47年に地域指定を受けて以来、53年から54年にかけて1回見直しをしておりますが、最近特に農地の転用が著しく進行しまして、広範な農地に住宅地が点在する現今を見るときに、広い農地の緑美しい自然の景観を残すべく、農業地域、商業地域、工業地域、住宅地域、そして調整地域等に区割りすべきであると考えますけれども、市長さんの所見をお伺いいたします。

次に、農地の流動化推進についてでございますが、担い手農家育成のために農用地利用増進法に基づく農地の流動化推進は、農業をめぐる情勢が大きく変化する中で、担い手不足等による過疎化の進行で、不作付地、耕作放棄地の増大が深刻な問題となっております。農用地利用増進事業でつくりえない人は貸して農地の有効利用を図り、またつくれる人は農地を借りて規模拡大をして農業経営の合理化、安定化を目指すべきだと考えます。

昭和55年、農用地利用増進法施行以来、利用権の設定は順調にやっているようにございますけれども、最近是非常にその利用権の設定が少なくなったように見受けられます。農家にとっては米の転作政策も大きく影響しているように感じられます。現在までの利用権の設定状況はいかがになっているのをごさいますでしょうか、概略の説明をお願いいたしたいと思います。あわせて今後の対応策ございましたらお聞かせ願いたいと思います。

次に、第3点の海洋性リゾートタウン整備計画について、その後の進捗状況についてお尋ねいたします。この問題につきましては6月の定例議会においても質問が出まして、レインボー計画は困難である。太陽平砂浦計画は県と協議中、南たてやまマリンパーク計画は事前審査中であるというような御答弁いただいたと記憶しておりますけれども、その後いかが進捗いたしましたのをごさいますでしょうか、お伺いいたします。

基本構想は、館山市の豊かな自然環境と調和し、しかも雇用の増大や地域経済への波及効果等市民にプラスになる計画を推進してまいりたいと申しておりますが、海洋性リゾートタウンというその名のごとく、海を利用した地域振興を積極的に推進すべきであると考えます。その中の太陽平砂浦海岸計画についてひとつお聞きしたいと思います。平砂浦の沖に人工島をつくってマリーナをつくることによって、鬼ヶ浦と呼ばれた平砂浦海岸が波静かな砂浜海岸に変わり、そして今言ったマリーナとともに海水浴場として絶好の場所になると考えられます。この海洋計画こそ館山市の観光にとって最も必要な海の開発、そして市の発展へとつながるものと確信いたしております。館山の活性化、特に外来客の伸び悩みの昨今、欠かすことのできない重要な施設と考えますが、海の開発計画はいかが進展しているのをごさいますでしょうか、

お尋ねいたしたいと思います。

次に、陸の開発についてでございますけれども、今度のプランはもちろん複合開発ということでございます。国、県の承認を得た開発計画と聞いておりますけれども、企業の方では許可がおり次第すぐ着工する予定だということを申しております。そのリミットが来年——平成4年の6月までということを知っておりますけれども、用地買収もかなり進んでおるようでございます。そして、その大幅な変更はまずないだろうというように予測されますけれども、いかがなものでございましょうか。

問題は地元住民への対応でございます。農業振興地域の圃場整備をした農地を買収されて、ハウスで生活している農家数軒——7軒の方々が不安に思うのも当然でございます。この問題につきましては再質問でまたお願いいたしますけれども、とりあえず開発計画に対するお考えをお聞きいたしまして、質問を終わります。御答弁によりまして再質問させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの島田 保議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、農道の整備促進についての御質問でございます。農村地域振興のため、切実な問題としての農道整備問題でございますが、農林業用施設等補修用材料交付につきましては、137農業集落を対象に、農業経営の合理化を図るため、生産基盤の維持、改良または改修を行う団体に対しまして、交付基準に基づきまして予算の範囲内で交付しているものでございます。材料交付限度額の増額につきましては、本年度から1,200万円を1,500万円に増額したところでございます。今後とも各集落からの要望等によりまして考えてまいりたいと存じます。

次に、大きな第2、農業振興地域の見直しと農地流動化の促進についての御質問でございますが、農業振興地域の見直しにつきましては、昭和45年度に農業振興地域の指定を受け、その後昭和52年度から昭和53年度にかけて第1回目の見直しを行い、現在に至っております。しかしながら、当初10年先

を見通して策定した農業振興地域整備計画も、急速に進展する経済、社会情勢の変化等によりまして見直しが急務とされてきております。したがって、館山市基本計画との整合性を図りながら実情に合った見直しを行ってまいりたいと考えております。

次に、農地流動化の推進についてでございますが、農地流動化の現状につきましては、利用権の設定等年々減少傾向にございます。これは農家の申し出により、館山市農用地利用促進事業実施方針に基づきまして貸し借りをを行うものでありますが、近年の農業事情及びそれを取り巻きます社会的、経済的環境の変化に伴う農業後継者不足、農業従事者の高齢化等によりまして、借り手、貸し手の需給関係のアンバランスによるものでございます。今後につきましては、この現状を深く認識するとともに、農地流動化推進員等の協力を得ながら流動化について積極的に推進してまいり所存でございます。

次に、大きな第3、総合保養地域整備法に基づきますそれぞれの開発計画の現状でございますが、太陽海岸平砂浦計画につきましては、県との大規模複合開発事業に関する内協議が終了し、現在事前協議中でございます。南たてやまマリパーク計画につきましては、市の開発事前審査を経て、県との内協議中でございます。これらの協議は林間部の開発計画でございまして、海浜部、海洋関係につきましては、県の方針もございまして、実現化に向けて関係機関、地元関係者との協議を進めているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） 第1点の農道の舗装化の問題でございますけれども、御答弁によりますと、1,200万の予算が1,500万に増額されたばかりだというような御答弁でございますけれども、これから高齢化がいよいよ進みまして、3年、5年のうちだったら何とかできるものが、これをだだだやっていたらいつになったらできるかわからない。とうとうそのうちにできなくなっちゃう可能性があるわけでございます。この問題につきましては十分御配慮いただきまして、少しでも早い機会に3年あるいは5年のうちにやるような計画を何とか御協議いただきまして、前進していただきますようお願い



をいたしまして、この問題についてはおおむね了承いたします。

次の農振地域の見直しでございますけれども、農振地域の見直しは、52年から53年に見直しをやって、それから十二、三年やっていないわけでございます。経済的にも、社会情勢もかなり変化してまいります。このあたりでひとつ見直しをしたらいかがなものでございましょうか。その点について当局にお考えありますかどうかお尋ねいたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） お答えいたします。

館山市基本計画にございます生産基盤及び農業経営の合理化の施策に沿った農地の有効利用、さらに圃場整備実施済み区域の優良農地の保全、また今後圃場整備実施予定区域の農地の確保等に努めますとともに、他の土地利用計画との整合性を保ちながら調整を図ってまいりたいと考えております。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） そうしますと、やる計画はおありのようでございますけれども、いつやるというようなお考えございますか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 本年度中に見直しを実施したいと考えております。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） そうしますと、本年度中に見直しということになりますと、この問題につきましては各農家あるいは地域で相談というよりも、市の方で案をつくっておやりになるわけでございます。その基準と申しますか、そのあたりはどんなふうにお考えでございましょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 今後基礎調査を行います。その後、意向調査——これは集落の座談会等も行いまして、アンケート調査、いろいろと現地実態調査等——実地調査といいたいでしょうか、これらを行いまして、年度末には市の農政審議会の方にかけてたい、こんなふうと考えております。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） そうしますと、地域の実情はそれぞれ違ひまして、今度は地域で座談会をやって決めると申しまして、かなり考えがいろいろあると思ひまして、この考えを1つにまとめることは容易なことではないと思ひますけれども、このあたりは前回の地域指定とかなり差が出そうな感じがするわけですが、このあたりはどんな考えをお持ちでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 確かに地域によりまして、例えばリゾートの関係だとかなり土地利用の関係、そういったものもございと思いますが、その辺は十分に実態把握いたしまして、また意向を把握いたしましてそれに努めたい、こんなふう考えております。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） それでは、農振地域の方は一応このあたりで納得いたします。

次に、農地の流動化の問題でございすけれども、農地の流動化は56年からですか、かなり最初はあったものが随分ここへきてはその利用権の設定が鈍っているように感じられますけれども、この理由をどういうふうにお考えになりますか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 確かに先ほどのお話の中での後継者不足、老齢化、こういった関係もございまして、貸し手の方が上回り、借り手の方が下回っている、こんなアンバランスがありましようかと思ひます。また、さらには補助関係の額的な問題もあらうかと思ひますが、そんなような状況じゃなかろうかと考えております。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） この問題につきましては実は——貸し手と借り手の要するにバランスということを今申されましたけれども、この貸し手農家に対しましては国からの交付金が出るわけでございます。10アール3年以上で8,000円、6年以上で2万円、10年以上だと3万円のように交付金が出るわけでございますけれども、この借り手農家に何らかの優遇措置があったら、

もっとこの農地の流動化の推進——いわゆる労力不足、高齢化で耕作不能の人たちの優良な農地を貸してやったら喜ぶ人もかなりいると思います。また、自然の調和からしましても、緑豊かなこの館山市の農地が荒れほうだいの農地であっていいわけがございません。

このような考えから、既に県下でも7市3町——10市町村で農地流動化市町村単独事業を行っているわけでございますけれども、館山市でこのようなお考えがおりかどうかお尋ねいたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 国、県の動向を見ながら進めてまいりたい、かように考えております。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） でき得るならば、かなり——県下で10市町村の地区でやっているわけで、館山市でも何とかほかに先んじてそういうふうな農政をひとつやっていただければ結構かと思えます。県、国の情勢を見てというよりも、館山市独自のひとつ農政として、あるいは条例が必要かもわかりませんけれども、そのようなお考えはありますか、ちょっとお尋ねいたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 早速には現在思っておりませんが、いろいろそういった実態も把握いたしまして、前向きに検討させていただきたいと思えます。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） どうもありがとうございました。

では、今度は第3点のいわゆる地域開発の問題につきまして——太陽平砂浦海岸計画でございますけれども、この農地を——農振地域を圃場整備をして、ようやくその返済も終わりました、ハウスをつくってハウスで生活している農家が7軒ほどございます。この農地をどうしても開発のために買収を余儀なくされまして、当初はこの代替地を企業の方で用意いたしましたけれども、どうしても少し地域的にも、地形的にも恵まれないということでもっ

てお断りしたわけでございますけれども、その後代替地の方が適当な場所が見つかりまして、そこで一応農家の方も納得したわけでございます。それが6月までにそういうふうな話がありまして、そのもちろん転用はできておりませんけれども、一応話の上ではそういう納得はしたわけでございます。その後、企業の方も何の連絡もない、市の方も連絡もないというようなことで、農家の方でかなり不安に感じているのが実情でございます。このあたり——この農地の代替について市の方ではいかがお考えでございましょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） これたしか2.5ヘクタールぐらいの代替が出たかと思います。これにつきましては、地権者との話し合いを進める中で、この要望にこたえるべく、100%の代替地の確保をするように市としても指導いたしましたし、そのような方向で進んでおるはずでございます。現在具体的な計画に入る、こんなふうな状況と伺っております。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） 代替地の問題につきましては、面積が少し私どもの調査より少ないように感じますけれども、一応農家の方もあそこの代替地ならいいということでございますので、そのところでよく協議を重ねていただきまして、不満のないようにひとつお願いしたいと思います。

それで、関連しまして、農業を営む上においてはどうしても水が問題になってまいります。あの計画によりますと、かなり——貯水池が随分できておるようでございますけれども、この水の問題につきまして——いわゆる用水として利用する場合にどのようなことをしたらいいのか、あるいは市としてどのようなお考え——いわゆる調整しますか、そのようなお考えはおありかどうかお尋ねいたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 現在農業用水としてため池が2カ所現地にございます。これにつきましては、計画の調整池の中で十分に確保する予定であります。これはたしか現在5カ所か6カ所の計画で進めており

ます。また、この用水の管理運営に関しましては、今後地元水利権者との協議という形で進んでいく予定でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） そうしますと、地権者と企業といわゆる協議する場合に、市の方もその場合に立ち会いすると思えますけれども、聞いた話によりますと、1カ月に1回いわゆる協議をする——話し合いの場を持つんだというようなこと言っていましたけれども、6月から何かやっていないというようなお話でございますが、この点につきまして言えば、市の方も十分理解はあると思えますけれども、最後までひとつ責任を持ってやっていただきたいと思えます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまのお言葉のように、市としても十分に指導、またそういった面持ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） 大体、おおむね納得いたしました。できればこの開発が計画どおり、市のためにも、そして地域のためにも、みんなのためになるようなことを——成功を祈るわけでございますけれども、最後に地元住民が常に犠牲になって、利益は都会へ取られ、そしてごみと雑排水だけが残るようなことがないようにくれぐれもお願いをいたしまして、私の質問を終わります。

どうもありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 以上で3番議員島田 保君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午後零時12分 休憩

午後1時03分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数26名、休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、4 番議員齊藤 実君。御登壇願います。

(4 番議員齊藤 実君登壇)

◎4 番(齊藤 実君) 去る4月の地方統一選におきまして、館山市民多数の皆様からの御支持をいただきまして議席を与えていただきました。いまだ半年足らず、研究不足、経験不足、非常に未熟ではございますが、したがって今回の登壇もいまだ時期尚早じゃないかと自問自答いたしましたが、案件が緊急かつ重大なだけに、不肖の身をも顧みず、あえて登壇させていただきました。

さきに通告いたしました農政問題について、水道問題、そして医療行政について、この3点についてお伺いをいたします。

まず第1点の農政問題、小さな1の農業後継者問題でございます。これはただひとり館山市だけの問題ではないと存じますが、県、国におきましても、重大な問題であるだけに、即真剣にこの問題を討議し、研究して直ちに実施していかなければ、過去にやはり禍根を残すものではなかろうかと私自身考えておるものでございます。

農家の長男、あるいはまた農業の後継者と言われる若い方々、青年学徒、高校を卒業し、大学を卒業して、ふるさと館山市に帰ってくることなく、東京、横浜あるいは大阪の繁華街に大方の皆さんが就職してしまいます。実にゆゆしき問題であろうかと存じます。なぜこのような現象が起こるか。いろいろ基本的な問題はあるかと存じますが、現在の農業を営む者には労多くして収入が少ない、収入が少なければ文化生活ができない、文化生活ができれば青年適齢期になってお嫁さんの来手がない、このような悪現象があらわれてまいります。これではやはり青年諸君は皆都会へ行ってしまうだろう。

片や農業の基盤である水田、田んぼはどうなっておるでありますでしょうか。これは今から二十数年前より基盤整備事業が出発をいたしました。三芳村あるいは館山市の山本、安布里地区、モデルケースとして最初これは出発をいたしました。この事業は国が5割、県が2割5分、あとの2割5分を受益者負担、このようなことでございます。現在の農業の農家の支出の中で何が一

番大きな問題かという、この基盤整備に対するところの造成の費用——既に払い出しが始まっておるわけですが、最も大きなウエートを占めております。基盤整備の場合2割5分。そしてまた、これに付随するところの安房中央ダムの管理維持費、これらを含めると相当の額になりまして、農業だけではかなり負担がかかってまいります。このような中で、現金収入を得なければとても現況農家はもたない。このようなことで、若者はすべて現金収入を得るためによそへ出てしまうということも考えられるわけでございます。

したがって、この基盤整備を行った後の1級水田が今後一体どうなるであろうかと考えると、まさに慄然とせざるを得ないのであります。若い人たちはみんな東京、大阪へ行ってしまった。年寄りだけが残った。1級水田はあるけれども、これの耕作仕手がいない。先ほど同僚島田議員からもお話ございましたが、現在は貸し手に借り手があって、それで若干のバランスが崩れているとはいいいながら、まだ何とか保っております。今から5年、10年、20年先に一体この現象はどうなるであろうか。

さきに行われました館山から鴨川へ通ずる128号線の沿道、あのようなところは耕作不可能ということで東京の大資本に買収されて、会社になり、事務所になり、レストランになり、いろいろな問題が——それを売った人はお金があるか、経済もよかろうかと存じますが、これ以外のところ、ずっと中の方の人はこれ売れません。また、売ったんでは大変でございます。もしこのようなことで、10年後に——終わってから10年後はそのような埋め立てもできるということを聞いております、ある地域によっては。このまま放置しておったのでは東京の大資本家にみんな買われてしまって、館山市に番地はありながら、館山市東京村ができてしまうのではなからうか。かようなことを考えると、将来の館山を非常に憂えるものでございます。

したがって、館山市としては後継者の育成、このようなことを重点施策にさせていただいて、1級水田になったこの地域を何とか維持する方法をお考えいただきたい。現在どのような方向で進んでおられるのか、第1点御質問いたします。

さて、農政問題第2の観光農業育成についてでございますが、観光農業といえ、やはり館野、山本、安布里のイチゴ、豊房方面にもございます。そしてまた、西岬、神戸方面の花弁栽培、これらが代表されておるようでございます。しかしながら、将来を展望すると、このまま放置しておったのでは、行政が指導していかなかったんでは一体どうなるであろうか。そしてまた、観光農業に全然縁のない地域もございます。館山市の東部、北部、全然現在のところございません。施策としてぜひひとつこの面にも力を入れていただきたい。幸いにして館山市には団地園芸試験場、農業改良普及事務所、これら指導機関がございます。市としてもこれらの指導機関と十分な密接な連絡をとって、いまだないところに、そして現在あるところにも指導していただいて、これが大きく伸びるように、館山市の観光として、そしてまた観光農業として伸びるように施策をお願いいたしたいわけでございますが、この辺どのようにお考えになっておられるか。

さて、大きな2の水道問題に入らせていただきます。1番の未給水地域の解消ということで、現在館山市には三芳水道企業団あるいは作名ダム等水道の手段がございます。しかしながら、館山市の東部地区、全然水道の恩恵に浴しておりません。したがって、この地域は仕方がないから地下水を利用いたしておりますが、再三の保健所の検査で、非常に水質が悪い、飲料水として不適当ということを再三指摘を受けたということを聞いております。庄司市長さんが市長さんになる直前まで地域の町内会連合会長をされておりました。この問題に非常に努力されてまいりました。いろいろ水質検査をやり、いろいろ地域との、町内会との連携を密にしながら、各方面にその敏腕を発揮して大いに努力されたということは市民の皆さんの大変な評価になっております。市民は敬意を表しております。

幸いにして各方面の御努力によって利根川の水が千葉県に給水されることになりました。平成5年までに房総導水路、長柄ダムまで入る。以降南房総導水路ということで、その以南 — いわゆる館山にも水道を持ってきてくれる。平成7年の夏までにこれが完成するという現在お話を聞いております。現在この計画がどうなっているのか、何か支障でもあるか、もしあるとした



らどうということなのか。平成7年夏までに未給水地帯に完全に ― 地域住民が ― 首を長くして待っている地域住民、いやのどと口を長くして待っている地域住民に完全に行くかどうか、この辺御質問いたします。

小さい2番の水道料金でございますが、これが完成された場合に、現在の三芳水道企業団より持ってくる水道の水と、あるいは作名ダムの水と新たにできる南房総導水路から各家庭に配給される水、この値段はどうなるのか御質問いたします。館山市としてはどうなるのか。水道事業は独立採算制ということは承知しておりますが、でき得るなれば安く、すべて平等にということ希望いたします。この辺を御質問いたします。

さて、大きな3番目、医療行政についてでございますが、1番の医療センターの充実についてまず第1点御質問いたします。二、三日前のテレビでも報道されておりましたが、我が日本国は名実ともに長寿国家になった。我々国民とすれば最も喜ばしいありがたいことでございます。日本の医療技術が進み、非常にすべてが合理的に日本人の寿命はぐんぐん伸びておる。いかに金銀財宝が多かろうとも、亡くなってしまったんでは人間は困ります。したがって、我々館山市の、あるいは周辺の住民が安心して ― もし不幸にしてそのような事態に陥ったとき、やはりこれは安房医師会病院医療センターを充実していかなければならないではなかろうかと考えるわけでございます。

我々人間生身でございます。長寿国家になった。お年寄りがいつ夜中にぐあいが悪くなるとも限りません。小さな幼児が、そしてまた青少年がいつぐあいが悪くなり、あるいは急性心不全などという病気で倒れるかもわかりません。その場合に一体館山はどういう措置を ― 館山市周辺はどのような措置をしておるのでしょうか。

はたまた日本の機械文明が進み、特に自動車産業が非常に発展をいたしました。我々の周辺においても、バイクを初め、乗用車、大型トラック等余りにも多く走り過ぎております。かつての交通戦争と言われた時代よりもまだ多く走っております。これではいつどこで交通事故が ― 悲惨な交通事故が起こらないとも限りません。絶対起こらないとだれが保証し得ましょうか。実に我が千葉県は全国でも上位の交通事故の県であるということを聞いてお

ります。不幸にして交通事故に遭った。内臓破裂あるいは頭蓋骨骨折等重大な危険なときになったときに現在どうなっておるでありましょうか。

救急車を頼む。すぐ来てくれる。患者を積む。さあ、行き先はどこでしょうか。鴨川方面の大きな病院、あるいは木更津方面の大きな病院であるということをおっしゃいますが、これでは余り時間がかかり過ぎて、助かる人も助からなくなってしまうのではないかと。過去にもあったのではないのでしょうか、このような悲惨な事故が。これでは文化都市館山と言えるのでしょうか。これを一刻も早く解消することこそやはり館山市の文化を誇れるものではないのでしょうか。

現在、安房郡市のお医者さんで構成している安房医師会病院、昭和39年6月1日発足したということをお聞かせしております。そのときにやはり館山市において1,000万、地域の町村でも相当の額を応援していらっしゃる。話を原点に戻して、建てた当時に返って現在早速これを応援をして、医療センターに最新型の機械を据え、これを操作できる立派なお医者さんを日夜待機させていただけたならば、市民が万一そのような事故に遭っても即対応できる。したがって、館山市は周辺の町村のリーダーシップをとって即これを実行していただきたい。現在どのようになっておられるか御質問いたします。

さて、最後に集団検診についてお伺いいたします。これは医師会の皆さん方大変お骨折りで、大変な効果を上げておられることは私自身十分知っております。現在の医療の中にもっとこれを推進していただかなければならない。人間のこのような医療行政——文明が進む。病魔もまた人間に追いつけ追い越せで追ってまいります。それを追い払うにはやはり早期発見早期治療以外にないと思います。この辺どのように医師会との連絡はとっておられるのか。

以上3点について御質問申し上げました。御答弁をお願いすると同時に、御答弁によっては再質問をさせていただきます。

終わり。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの齊藤 実議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、先ほどの島田議員に続きましての現下農政問題についての御質問でございます。特に第1点目、農業後継者問題についてでございますが、国は生産性の向上を進め、国内の基本的な食糧供給の確保を図りつつ、希望と誇りを持って取り組める農業と活力ある農村社会の実現を掲げておりますが、農業諸問題をめぐる情勢は極めて厳しい状況でございます。これらの状況に対応いたしまして、現在県では安房地域の農林業の活性化を図るため、重点事項として担い手の育成確保対策を検討しているところでございます。一方、館山市は後継者対策として、中核的な担い手の育成確保を図り、農地の貸借等による集団化を促進するとともに、専業農業従事者の結婚に対する奨励金制度の実施、また新しい時代の農業に対応できる技術習得の場としての組織づくりのため、農村青年グループ育成事業及び農業企画研究会育成事業を実施し、後継者育成を図っております。

次に、小さな第2点目の観光農業育成につきましては、現在イチゴ狩りと花摘みがあります。いずれも開設以来約10年が経過し、生産者と関係者の懸命な努力により、ようやく軌道に乗ってきたところでございます。これらの方々の地道な努力をたたえていきたいと存じます。これからも館山市の特産物であるイチゴ、花卉を中心に、さらに先ほどお話の団地園芸試験場等各関係機関及び生産者等の一体となった研究、指導がなされ、消費者ニーズに対応できる特産品ができることを願い、市といたしましても積極的に推進してまいりたいと存じます。

次に、大きな第2の小さな第1点目、水道問題の未給水地域の解消についての御質問でございますが、御承知のとおり安房、夷隅郡市の17市町村に水道用水を供給する南房総広域水道企業団が設立されまして、今年度一部の地域では送水管の工事が予定されております。館山市もこの通水と同時に給水できるよう、給水地域の変更等を含めた拡張事業の認可を受けるため、県と協議を重ねているところでございます。館野、九重地区につきましては、給水のための地区説明会を開催し、住民の皆様には周知を図るとともに、給水管

ルートの路線測量及び地質調査に着手いたしました。また、一部では道路舗装改良に伴う配水管の新設工事を施行するなど、平成4年度からの拡張事業に先行しまして作業を進めているところでございます。

次に、小さな第2点目、水道料金についての御質問でございますが、県では南房総広域水道企業団の用水供給単価を1立方メートル当たり220円程度に抑えるべく助成措置を講じているところでございます。今後この企業団の供給料金決定を受け、館山市の拡張事業費とあわせて原価計算を行い、給水区域全体の統一された料金算定を行いたいと考えております。

次に、大きな第3の小さな第1点目、たくさんの市民の声が届いております医療センターの充実についての御質問でございますが、医師会病院の改築に当たりましては、車社会、高齢化社会の到来による医療需要の多様化を踏まえ、市民の医療に対する要望を充足するために、機能の拡大充実を安房医師会にお願いしているところでございます。建設用地につきましてもおおむね確保の目途がついたと伺っておりますので、これから具体的な段階に進んでまいりたいと思います。館山市にとりましては、望ましい医療体制を確立するため、医師会病院の役割は重要でございます。市といたしましても関係団体と連携を図りながら協力をしてまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、集団検診についての御質問でございますが、市民の皆様の望ましい健康管理という観点から、疾病の早期発見早期治療が重要なことは御指摘のとおりでございます。館山市では、成人病予防対策事業といたしまして循環器検診と6種類のがん検診を実施するなど、逐次検診項目の拡大と内容の充実を図っております。受診者も年々増加しており、健康は自分で作り、自分で守るの意識をたくさんの市民が自覚しつつある結果だと受けとめております。また、町内会長さんや保健推進員の方々による啓発が大きく影響しているものと考えております。多くの市民の方に受診していただくためには受けやすい環境づくりが重要でございますので、今後とも受診環境の改善に努力してまいります。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 斉藤 実君。

◎4番(齊藤 実君) 農政問題の後継者問題、いろいろと手を打っておられる。将来何らかの形で後継者が希望を持ってくるであろうということは大変に喜ばしいことであろうと存じますが、万一これが非常に少なくなってしまった場合、現在のように老人——昔よく3ちゃん農業という言葉がはやりました。父ちゃん、母ちゃん、ばあちゃん、年寄りと子供を対象にした言葉であろうと思いますが、やはりせっかく1級水田にした田んぼをよその人に売らなければならないような状況に追いやらないように御努力、いろいろと研究をお願いするわけでございますが、もし労働力が不足した場合どのようなお考えがあるか。非常にこれは難しい問題でございます。館山市だけの問題ではございません。日本国じゅういわゆる土地改良整備事業を行ったところは、みんな同じく頭の痛い問題であろうと思います。ひとついろいろこの農家自身が全部田んぼを株主のように貸し出して、それでもって雇用者をお願いしまして、労働力を雇って、それでやる方法もあるだろうし、あるいはまた大資本がそれを借りて、いわゆる農家がそれに貸して、またそれを確保していく方法もある。いろいろと問題はあろうかと存じますが、どうかひとつ現在持っている農家が子孫のためにこれを手放さないでいいような方法を研究願いたい。非常に難しい問題でございますので、今これをどうしろというお答えは要求いたしません、要望としてお願いいたします。

第2点目、観光農業の育成でございますが、いろいろと最初にも補助されるし、ことしも平成3年度予算の中で——二、三日前の新聞にも出ておったようでございますが、イチゴの苗の冷凍施設、これにも相当補助しておられる。大変我々としては心温まる政策、よい方法であろうと考えます。しかしながら、これはある年限が来ると行き詰まってしまうのではないかと、現在のやり方では。例えば、観光地——鴨川にしろ白浜にしろ、観光地、旅館街——鴨川にはイチゴもある。バラ園もあります。私は実際見てまいりました。非常に成果が上がって、観光のバスも——大型のバスがまだ行くまでにはなっておりませんが、一応観光として大きく伸びております。また、白浜方面へ行っても、途中にイチゴ園があり、白浜でもって、あそこはソラマメまでつくっておりますが、こっちでも観光農業でソラマメなり、あるいはイチゴ

なりどんどん始めたら、何にもないところの館山市では、やはり観光客が大型バス横目で見ながら向こうへ行ってしまうんじゃないだろうか、そのような心配もされるわけです。先ほど申し上げましたが、指導機関が数多くございます。気候にも恵まれております。このような恵まれた環境の中で将来多くはぐくめるような指導体制をお願いしたい。

例えば — ここでちょっと質問いたしますが、産業課の中にそのような知識を持った、あるいは団地園芸へ行っても農業改良普及事務所に行っても、堂々と技術面、いろんな問題で話し合いのできる人を設置されてあるかどうか、将来どうされていくか質問いたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまのお話の技術者は現在おりませんでございます。将来的にそれが必要かどうかということになりますと、今後検討させていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 斉藤 実君。

◎4番（斉藤 実君） 次の水道問題。

先ほど御答弁の中で、既に国分あたりがもう管が配置されておる。これはいわゆる正式ルートのあれじゃなくて、道路管理者の都合によってやっておるという話を聞いております。したがって、平成5年以降でないと南房総導水路のあれは始まらないと思いますが、これが始まった時点で — 道路の右左どちらかへ給水管を埋めるわけです。その場合に — 現在はまだ恐らくこの問題は各方面で討議されておらないと思うんです。もし県道右左があって、うちがあって、ここへ — 右の方へ埋める場合は右の方の受給者は非常に工事費が安い。左の方はその分道路を立ち割って埋めなけりゃいけませんから高くなる。このような問題が — 各課の皆さん一生懸命地域を回っておられて説明されておりますが、いろいろ問題はあろうかと存じますが、このような問題が出たとき、町内会ごとにいろいろ摩擦が起きないように方法をひとつしていただきたい。水道関係の皆さんが日曜日を返上し、休みを返上し、夜、夜中まで地域の皆さんのところへ行行って、町内会といろいろ説明し合い、話し合いしておられる姿を私見て知っております。大変に敬意を表しており

ます。今後しかる後にこのようなごたごたが起きないように方策を考えておられるかどうか質問いたします。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 答えいたします。

御指摘の道路の右ないし左側に配水管が入った場合、反対側に当たる方は大変負担が多く、不公平ではないかというような御質問でございますが、配水管の布設に当たりましては国、県、市道の道路管理者の道路の占用許可が必要でございます。既に右ないし左側にN T Tのケーブル等が埋設されておった場合はその反対側に当然としてなるわけでございまして、個々の引き込みの負担は水道加入する地域の方々と共同して工事のプールを計算することも1つの方法かと思えます。今後地元の方々と十分話し合ってまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 齊藤 実君。

◎4番（齊藤 実君） 水道事業に対しましては大変皆さん御努力されておる。庄司市長さんも市長の直前までこの問題については徹底的に努力をされた方でございます。どうかひとつ水道事業が地域住民が満足のいくようなことで、今のままひとつ推進していただきたいと要望いたします。

第3番目の医療行政について御質問――先ほども交通事故、老人の不慮の病気出現と言いましたが、現在の安房地方には病院がかなり多くございます。したがって、医療法施行規則によって、これ以上の大病院を新設したり、あるいはまた医療センター的なものを新たに建てるということは非常に困難であるということを聞いております。できないものを即やれといってもこれは無理でございます。したがって、毎日起こり得る交通事故、そしてまた夜中に病気が起きる。もうこう言っている間も救急車が走っておるかもわかりません。このような切迫した時期に、行政はやはり館山市民民生安定のために、一刻も早く安心できる体制を医師会と一緒につくかならぬと思うわけでございますが、本日は幸いにして医師会長の山田先生がお見えになっております。山田先生非常にこのような問題に御熱心で、いろいろと会長の

立場から各方面に指導されておるようでございます。大変に敬意を表するものでございますが、昭和39年6月に白幡静夫先生が初代委員長になられて医師会病院ができたということは聞いております。そのときにもやはり館山市——先ほど申し上げましたが、館山市では合計1,000万の援助をしておるよう聞いております。39年より安房町村では160万ずつ5年間、合計800万、県でもやはり2,500万補助しておるよう聞いておりますが、原点に返って、現在の情勢で即安房医師会病院を充実させなければいけない。昭和39年に今すぐ安房医師会病院を建てて民生の安定を図らなければならない。同じ要素があるんじゃないだろうかと私考えるわけです。やはりこの当時に返って、行政が即医師会病院の皆さんと御相談して、館山市がやはり中心でございますので、安房地域、安房郡市の町長さんがリーダーシップをとっていただいて言葉がまずいかもわかりませんが、ひとつ率先して、でき得る現在でも可能なことを医師会病院の充実ということで即始めていただきたい、これが先ほど申し上げました緊急かつ重大な問題でございます。したがって、あえて不肖の身を顧みず登壇したわけでございますので、どうかひとつ医師会の皆さん方と十分密接な連絡をとり、ぜひこれを実現していただきたい。この辺いま一度質問いたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 非常に市民生活に密着しました大事な問題——医療問題でございますし、ただいまの適切な御意見を十分に受けとめましたので、これから対処していきたい、こう思います。

ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 斉藤 実君。

◎4番（斉藤 実君） ぜひひとつ市長さん、お願いいたします。要望して……。

最後に、ごく最近できました——安房地域保健医療協議会というのが結成されたという話を聞いておりますが、この協議会の内容について御説明していただければありがたい。お願いします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。



◎民生部長（佐藤澄雄君） 本年の9月の9日に安房地域保健医療協議会、これが結成されました。この目的等でございますけれども、この設置の要綱によりますと、こういうことになっております。目的及び設置、安房地域における地域保健医療計画の試案作成並びに推進を行うことを目的とし、安房地域保健医療協議会を置くということになっております。所掌事務といたしまして、協議会は次の各号に掲げる事項について協議する。1つ、地域保健医療計画を策定するための試案の作成に係る事項。2つ、地域保健医療計画の推進に必要な事項。こういうことになっております。

なお、これにつきましては9月の9日に創設されまして、要綱の承認、それから会長、副会長の選任、ワーキンググループの選任等が決定になっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 斉藤 実君。

◎4番（斉藤 実君） このような医療体制が着々できる中で、結局我々市民、そしてまた地域住民、医療体制の本当の真からの確立を望んでおるわけでございます。医療法施行規則では、安房地方は入院の病床は1,975でございましょうか、現在既に303もオーバーということを聞いております。したがって、施行法に基づいて医療を進めていく上にはどうしても安房医師会病院の充実以外にございません。市長さんからも前向きの御答弁いただきまして、ぜひこれが早期に完成するよう要望いたしまして、質問を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で4番議員斉藤 実君の質問を終わります。

次、18番議員日下君敏君。御登壇願います。

（18番議員日下君敏君登壇）

◎18番（日下君敏君） 私は既に通告してございます5事項につきまして庄司市長の御意見を賜ろうというものでございます。

通告してございます事項を改めて読み上げますと、第1が富士ディーゼルの跡地問題について。この趣旨は、この土地は館山市が一括購入して活用すべきであると存じますが、いかがでございましょうか、こういうことでございます。

第2点が館山市の施行しております街並み景観指導要綱の改正についてでございます。これは自然公園地域の規制を周辺地域にまで拡大いたす、こういうことでございますが、そういうことは私権の制限につながるのではないか、あるいはつながるおそれがあると存じますが、いかがでございましょうかというようなことをお聞きいたしたいと存ずるところでございます。

第3点目が館山市駅前の市街地の整備問題についてでございますが、今回は街路問題についてお聞きいたしたいと思ひまして、六軒町商店街の街路は地域の活性化のために16メートルに拡幅すべきであると思ひますが、いかがでございましょうかということをお聞きいたしたいと思ひます。

第4点目が県立文化ホールの建設問題でございます。文化ホール建設への誘致運動は全市一丸となって積極的に行うべきだと思いますが、いかがでございましょうかというような点をお聞きいたしたいと思ひます。

5点目が建築確認申請に添付する浄化槽の協定書について。この問題は6月議会にお聞きいたし、その後一歩前進した取り扱いがなされるようになったというふうにお聞きいたしておりますけれども、具体的にはいかがなものであるかお聞きいたしたいと存ずるところでございます。

この5項目のうち、さきの6月議会に引き続きまして質問する事項もございます。富士ディーゼル跡地問題、文化ホール誘致問題、浄化槽の協定書問題等々でございますが、これらの問題は非常に流動的でございますので、その後相当程度展開しておる問題でございますから、9月時点における状況をお聞きいたしたい、こういうことでございます。市長におかれましては簡潔な御答弁をお願い申し上げまして、以下順次質問に入ります。

第1点目、富士ディーゼルの跡地問題でございます。この問題は6月議会で御質問いたしました。したがいまして、その続きということでございますけれども、6月議会の議事録を読みますと、市当局はこの跡地問題の買収というか、売買は資金面でいささか難点がある。現在の市の財政状況では困難でありますということの答えをいただいております。さらに、県にお願いしてございますけれども、大変難しい状況下にありますが、今後引き続き鋭意努力いたす、こういう議事録の答弁をいただいておりますので、そ

の鋭意御努力なされた結果いかなことになっておるのかお聞きいたしたい、  
こういふことでございます。この問題につきましては、議員の全員協議会そ  
の他でその都度市御当局から御説明は受けているところでございますけれど  
も、やはり議会という公の立場で、公の場面でこの進捗状況をお聞きいたし  
たい、こういふふうに思うわけであります。

この富士ディーゼルの跡地約3万坪、この置かれた位置、いわゆる地理的  
位置の優位性と申しますか、そういったこと、さらにはこの規模、こうい  
うことから見ますと、もう既に館山市にはこれだけのものはない。したがっ  
て、この市の発展、活性化のためには多少の無理をしてもこの市の方でお買  
い上げなさるのが一番いいことではないか、かように存ずるわけでございま  
す。この富士ディーゼルの跡地についてはなぜこういふことを言うかとい  
いますと、この経過が大分長い。最初から始まってもう3年間ほどもやってお  
る。それなのにどうもいま一つすっきりしたものが出てこない。これはいか  
がなものか、こういふふうに思うわけでございます。一説によりますと、こ  
の9月末をもって館山市の方が富士ディーゼル側に、どうも話がうまくいか  
ない、申しわけないというようなことで、一件にけりをつけるというよう  
なうわさも伺っておりますけれども、どうもこれでは誠意がいささか足らな  
いのではないか。館山市の方から申し入れておいて、どうも状況がうまくい  
かないから、これでは勘弁してくれということでは大人げないように思うわ  
けでございます。既にこの問題は市長の政治的決断をまつという段階にきてい  
るのではないかとおもいますんで、ひとつその辺を踏まえて御答弁をいた  
だきたいと存ずるところでございます。

第2点目が館山市の街並みの景観指導要綱の改正についてでございます。  
この街並みの景観指導要綱は、総合保養地域整備法——いわゆるリゾート法  
の施行に伴いまして、平成元年より館山市が実施施行している指導要綱で  
ございます。これによりまして、この適用範囲は——適用範囲となりますと、  
リゾート法に基づく重点整備地域、これがその範囲内に入りまして、この地  
域は例えば建物については屋根はオレンジ色にしなさい、壁はしゅくいにし  
なさい、いわゆる南ヨーロッパといいますか、スペイン風のものをいたせと

いうことの指導をいたしております。

今回、この指導要綱の一部改正をいたすというふうなことをお聞きいたしたわけでありますが、その改正の趣旨は、自然公園特別地域 — これは当然その自然公園特別地域は今の適用範囲の中へ入っておりますが、その自然公園特別地域外 — 線引き外の周辺地域についてもこれを特別指導区として自然公園と同じ規制をいたすということの改正をいたすということを聞いております。これによりますと、高さ制限が主なるものでございまして、13メートルという規制を受ける。さらに、その規制として、県道から — 海岸通りの県道ですね、フラワーラインその他、そこから50メートル山側、そこから海側はすべてこの規制範囲に入るといふふうにお聞きいたしております。その改正によりますれば、館山の大賀、見物、波左間、相浜、その辺がずっと周辺地域として入ってくるわけでございまして、この改正そのものは私はそれはそれでよろしいと思うんです。やはり景観を保つためにはそういうことも必要でございましょうけれども、問題はその自然公園の線引き外にある — 線引き外にあって今まで規制はなかったその地域についても直ちに規制をいたすということになりますと、所有権の一般に受任すべき範囲を超えるような規制ではなかろうか。しかも、これが議会の承認も得ないでよい指導要綱で行われる。条例ではなくて指導要綱で行うということはいささか問題があるのではないかと存ずるわけでございますので、この点をお聞きいたしたいと存ずるわけでございます。かような改正をいたすのか、いかなる趣旨に基づいていたすのか、市御当局の御見解をお聞きいたしたいと存ずるところでございます。

次が、駅前の市街地の整備問題についてでございますが、私が今回お聞きいたしたいのは、街路についてだけをお聞きいたしたいと存じます。現在の館山市の計画道路によりますと、国道 127号線の松田屋書店から千葉銀行のあそこの支店まで — 127号線の範囲ですけれども、これの都市計画の計画街路幅員が12メートルでございます。しかし、この12メートルを16メートルに変更いたそうというような動きがあったといふふうにお聞きいたしております。なぜかようなことになるかと申しますと、現在は8メートルなんです。

それを — 都市計画が12メートルですから、あと4メートルずつ拡張しようということです。さらにそれを16メートルにいたそうということですが、この都市計画を12メートルから16メートルにいたしたいということの趣旨は、12メートルでは歩道が1.5メートルであります。これを16メートルにいたすると3.5メートルになる。つまり、1.5メートルでは今傘を差して人間がすれ違いやっただ。これではなかなか買い物もできない。ですから、3.5メートルにいたしますとゆとりが出てきますし、これはやはり商店街の発展にもなるのではないか。かようなところから16メートルにいたそうというような計画がなされたと聞いておりますけれども、この16メートルの問題が現在一とんざしているというふうに聞いております。一体いかなることでこの16メートル計画というものがとんざしておるのか、その辺のことをお聞きいたしたい、そういうことでございます。

第4点目が文化ホールの誘致についてでございます。この問題につきましては6月議会でお聞きいたしましたのでありますが、その後大変に動きが活発です。雲仙の普賢岳ではありませんけれども、大変な動きがありまして、今一番館山市としてフィーバーしているのはこの問題だろうと思うわけです。館山市を初め、鴨川市、さらには千倉町まで誘致の候補者が出ましたものですから、三つどもえになっておるし、館山市と鴨川ではこれは本当の綱引きが行われるというような大変活発な動きをいたしておるわけでございます。さらには、この問題について住民サイドが動いているということが大変目立つわけでございまして、南総住民の会といいますか、決起大会その他を開いてここに至っておるということでございます。市御当局も庄司市長を初め、各方面に — 知事部局等々への働きかけをやっておるということを聞いております。当館山市議会も誘致特別委員会をつくりまして、私も副委員長としてその末席を汚させていただいております。かように行政、議会、住民、これが三位一体となりまして活動いたす。大変に理想的な格好であろうと思うんですけれども、6月議会に一度お聞きいたしました。その後の動きについて具体的に聞いた上で、さらに今後これについてはどのような活動をいたすのか、ひとつこの場でお聞きいたしたいと存ずるところでございます。

館山市のことだけを申せば、館山市がコミセンのところに土地を用意してある。この計画がさわやかハートちば5か年計画によって南総に1つつくろうということでできておる。そのハート計画の趣旨に沿えば、この地域の発展、文化向上ということにおいては館山市がグッドポジションにおるのではないかと存ずるわけでございますけれども、その辺の御見解もお聞きいたしたいと思うところでございます。

第5点目が浄化槽の協定書についてでございます。この問題については6月議会でもお聞きいたしました。その後、この問題いろいろ反響がございまして、各方面から御意見が参りました。また、市御当局も一部前向きな行政をいたしたというふうに聞いております。では、いかなることをいたしたのか、どういう状況になっておるのか、その現時点での状況をお聞きいたしたい、こういうふうに存ずるわけでございます。

6月議会でも私も申し上げたところでございますけれども、現在設置されます浄化槽については、国、県、そういうところが浄化槽のいわゆる排水基準については大変厳しい規制を設けておる。その浄化槽はクリアしているから今使えるんだということになりますと、今問題になっておる海とか川とかの汚染の原因はこの浄化槽にあるのではない。では犯人はどれかといいますと、我々一般家庭から流れる雑排水が、これが主因であるということはもう自明の理なんです。これはもう各方面でわかっていることであります。でありますから、公共下水道をつくりましょう、あるいは家庭で三角コーナーをやってください、こういうことになっているだろうと思うわけであります。ですから、この浄化槽についてはさほどきつい規制は要らないのではないか、かように思うわけでございます。一体どういうふうな改正をいたして今後どのように臨みたいのか、その辺のことをお聞きしたいと思うわけでございます。

御質問を終わりますが、御答弁によりまして再質問させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの日下議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、富士ディーゼル跡地についての御質問でございます。7月中旬の回答期限を9月末まで延長することについて富士ディーゼル側の了解をいただき、その後県へお願いするとともに、館山市で一括購入すること等についていろいろ検討を重ねてまいりました。現状におきまして跡地を館山市で一括して購入することにつきましては、現在の館山市の財政状況下では極めて困難でございます。現在、県に対しましてこちらからの要望を十分に検討をお願いしているところでございます。

次に、大きな第2、館山市街並み景観形成指導要綱についての御質問でございますが、館山市にとりましては県道南安房公園線の一带は、自然景観に恵まれておりまして、観光及びリゾート地としての貴重な財源でございます。御指摘のとおりでございます。平成3年7月1日から県の建築基準法施行条例が改正され、施行されました。建築物等の高さにつきましては自然公園地域外では制限されておられませんので、今後、高層建築物等による景観への影響が予想されるところでございます。館山市といたしましては、貴重な自然景観を保護するため、地権者等への御理解、御協力をお願いし、建築物等の高さについて指導してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、駅前市街地の整備問題についてでございますが、御質問のありました国道127号——通称銀座通りにつきましては、昭和44年に幅員12メートルで都市計画決定されておりますが、近年の自動車交通の増大が進む中、商業的な土地利用計画としては両側に3.5メートルの歩道が必要であるとのことから、16メートルに拡幅する案が地元からも提案されてきたところでございます。また、昭和62年度の館山駅前地区市街地整備基本計画調査において、東口駅前地区は一体的に整備をすることが必要とされております。さらに、本路線においても幅員16メートルとすることが提案されております。この路線の幅員を12メートルから16メートルに都市計画変更することは、地元地権者の理解が得られていること及び都市計画変更後早期にわたる道路拡幅の事業に着手できること、これが前提条件になるわけでございます。そのため、平成2年4月から、両側に歩道3.5メートルを設けることについて地元権利者の意思を固めるため、館山銀座商店街振興組合において地元権

利者に対しまして同意を求めているところでございます。現状においては3分の2の同意が得られ、現在も引き続き努力している旨伺っております。なお、事業化に至るまでには相当の時間を要するものと考えます。

次に、大きな第4、県立文化ホールの建設問題についての御質問でございますが、誘致運動の推進につきましては、御指摘のとおり御協力いただいております。感謝申し上げます。館山市といたしましては、6月に知事及び関係部局に対し陳情書を提出し、誘致実現を強く要望し、8月には鋸南町、富山町、富浦町及び三芳村の各町村長の御協力を得て、そろって知事に陳情したところでございます。また、館山市議会におかれましては、いち早く誘致対策特別委員会を設置され、7月に正副議長と正副特別委員会委員長が知事及び関係部局へ建設実現の意見書を提出されましたこと、市長といたしまして心から感謝申し上げる次第でございます。一方、地域住民の自発的な呼びかけで南房総住民の会が結成され、安房地域住民を巻き込んだ住民運動が幅広く展開されまして、短期間にもかかわらず4万人近い署名を達成して、7月には知事及び関係部局に対しまして陳情書を提出しております。さらに加えて、9月に入りましては、市、市議会、南房総住民の会に加えて、自由民主党千葉県連合会館山支部の4団体の連名によりまして千葉県議会議長及び自由民主党千葉県支部連合会に対しまして陳情し、館山市への建設実現を強く要望してまいった次第でございます。今後の誘致運動につきましても、市議会初め関係団体の御支援、御協力を得ながら積極的に推進してまいる所存でございます。

次に、大きな第5、建築確認申請に添付する浄化槽の協定書についての御質問でございますが、建築確認申請につきましては、市町村建築確認申請書等取扱要領に基づき、書類の確認、現地調査等済み次第、館山土木事務所へ進達しております。

以上で答弁終わります。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） ただいまの市長の御答弁でおおむね了承いたすところでございますけれども、いま一、二お聞きいたしたい、あるいは突っ込



んでお聞きしたい点もございますものですから、ひとつ再質問させていただきたいと思います。

第1点の富士ディーゼルの跡地でございますけれども、この問題は大変難しいということは百も承知なわけございまして、結論から申せば、既に市長の政治的判断をまつしかないのではないかなというふうに思うわけでございます。

ここで、いましてお聞きいたしたいんですけれども、時間の関係がございまして、これまでの経過について私の方で申し述べますから、そのとおりだよということならばそのとおりだということで御答弁をいただきたい、こう思うんですが、この問題が当初発生したのは、平成元年の12月ごろに富士ディーゼルの工場閉鎖に伴いまして、当時の半澤市長が雇用の問題、これについて市の方も側面から御援助いたしましょうというようなことの中で、この富士ディーゼルの跡地については、この処分をいたすというときには事前に御協議願いたい、こういうことを文書で申し入れたということだろうと思うんです。その後さしたることはなくて、平成2年4月——つまり去年の4月に館山商工会議所は館山市に対してやはりこの富士ディーゼルの跡地問題については確保していただきたい、かような申し入れを商工会議所から市に行った。これを受けまして、同年8月——つまり去年の8月に館山市としてはこれを下水道処理場、終末処理場として充てたいというような決定というか、内部決定をいたしまして富士ディーゼルと交渉に入った。富士ディーゼル側は去年の10月ごろに至って、いやこれは一括購入を願いたいという申し入れをいたしたというようなことだと思うんです。平成3年——つまりことしの1月に至りまして、市の方といたしましてはどうぞ先ほど申しておるように資金的にこれは無理だということで、県にお願いした。県の方で、では計画を持ってこい。ただ買う買うではわからぬよというようなことですから、館山市としては計画を作成の上、県へこの4月ごろ持って行っていろいろ検討した結果、どうも県としてはこの計画では余りよろしくないということで、県の方も望み薄というか、大変この県計画がぼしょんになって大体今に至っていると思うんですが、こういう経過でよろしいでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） おおむねにおいてそのとおりでございます。ただ、県の方をお願いしているという段階は、当初の段階から市では無理だということで、県の方をお願いするということでお話ししてあります。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 今の御意見ですと、最初から県の方にもお願いしてありますよということですね。県の方はじゃあ計画を持ってこい。どういう計画をどこに頼んで、どの程度の費用でもってつくった上で持っていったのか、その計画の概要について簡単に結構ですから御説明願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 県の方におきましては企業庁の方をお願いしてございます。内容につきましては、企業の研修、これをつくる場合、県の5カ年計画の骨子案が既に示されていたというようなこともありまして、県の計画に位置づけられたインダストリアルパーク計画、それを補完するような計画の方が通りやすいんじゃないかということを考えまして、企業の研修保養施設あるいは海洋レジャー施設を中心としました複合施設のプランを提出したわけでございます。

それで、実際にどこということでございますけれども、一応企業庁と協議する中で、一応企業庁からの実績のあるような業者の方が通りやすいんじゃないかということで、その時点で南地域の開発調査を受託しておりまして、また既に県の調査でも種々の調査をしております、また館山市周辺のデータを保有しているところのシステム科学コンサルタンツに一応依頼したわけでございます。依頼した金額は599万4,600円でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 計画はいいと思うんですが、これはなぜだめなんですか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 先ほども御説明しましたように、企業庁では具体的な案がなければ検討できないということでコンサルにお願いしたわけでございますけれども、結果的には企業庁事業としては採算性の面から採用できないということでございました。一番取り上げられなかった要因としては、企業庁が採算面を重視しておりますので、結果的には企業庁の考え方には合わなかったということでございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 不勉強で申しわけないんですが、その採算性という意味はどういう意味ですか。県がインダストリアルパーク用の保養施設をつくって、それを企業に売買する、販売する、そういう面で買うところがないんじゃないか、こんなことなんですか。具体的に――簡単で結構ですが……。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 企業庁職員の言葉そのままですと、要するに用地費の占める割合が大きくて、そのような高い土地でそのような施設では到底採算性が無理じゃなかろうかというようなことでもございました。

◎18番（日下君敏君） 売買するわけですね、それは土地と施設を。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 一応企業庁、コンサルの計画では、それを売買あるいは譲渡という形をとってやるということになっております。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） この計画は結局つぶれたんですか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） そのとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） そうすると、今後はどうしようということなんですか。その9月が一応のこちらが答えるタイムリミットになっているわけです。そのときにどういうふうに関手方に答えて、その後どういうふうな方針

でいこうと思っているわけですか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 富士跡地につきましては9月末が一応回答の期限となっておりますので、その時点で現状を話しまして、一応一括購入につきましては残念ながら断念せざるを得ないということで御回答し、その後のことにつきましては、当初の申し込みどおり公共下水道等の都市施設用地について譲渡をお願いしていきたいと思っております。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） ちょっと風邪引いていて申しわけございません。ちょっと声が——本当は普通はもっといい声なんです、きょうはちょっと声がかれておりまして申しわけございません。

私、市の方針が一貫していないと思うんです。当初公共下水道の終末処理場を計画いたした。しかしながら、これがいかんということになったんで、コンサルタントに頼んで計画書をつくった。その計画書の中には終末処理場の計画は入っていますか。入っていないんでしょう。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 入っておりません。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 結局先に——最初は——平成2年の8月においては下水道の終末処理場にいくよということになった。しかしながら、県に対しては——この館山市の終末処理場というのは大変な重要な問題だろうと思うんです。計画のときになぜ終末処理場も含めたような計画をやらなかったのか。素朴な疑問です。それで、それが終わった後で、今度じゃあ新しい計画を出してだめだから、再び終末処理場でいきますよ。これはどうも話が直線にいていなくて、相当クランクしていると思うんですけれども、なぜこういうことになっているんですか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 一応、下水道処理場につきましては、県にお願いする中で、企業庁事業としては無理だ。企業庁事業として取り上げるた

めには少なくとも10ヘクタールは必要だ。それがいわゆる跡地の一部ということでは到底取り上げられないというような話がございまして、その時点で一応敷地の約 8.8ヘクタールを対象としまして企業庁にお願いしたわけでございます。その中で、市の考え方としては、下水道処理施設につきましては近辺土地を含めて検討する予定でございました。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） どうもちょっとすっきりしないと思うんです。館山市が終末処理場としてあそこがいいということならば、せっかく 600万円もかけてコンサルタントに計画を頼むときに、ここは館山市としては終末処理場として使いたいんですよ、ですから、そういうことを踏まえた上でひとつ計画を練ってくださいよということをするべきだろうというふうに素朴に思うわけです。その計画——今度新しく県に持っていった計画では全く処理場が入っていない。では、この処理場——その計画がだめなら、この次はまたじゃあ今度分割して終末処理場いただきたい。どうも一貫していないと思うんです。

大体、この終末処理場というものは、下水道の終末処理場は、なるほど最近では公園化された立派な施設になっています。我々も各行政視察に行きまして、よく終末処理場も見させていただきますが、確かにきれいです。公園化されていますけれども、やはりこれは一般的に申せば我々の言う嫌悪施設というやつです。余り人に好かれぬ、人が余り好まない施設であります。ですから、富士ディーゼルが一括購入願いたいということの裏には、この終末処理場をでは分割してそこに取られて、残りのところを——ではほかを富士ディーゼル何か企業に売ろうかというときに、これは隣に終末処理場が来るんでは売れないということがあるから、ひとつ一括願いたいというような裏もあろうかと思うんです。

そういうことから申しますと、これから——じゃあ9月末といいますから、これから旬日を経ずして、富士ディーゼルにいやこれだめでしたと申し上げて、いや、しかしながらひとつ終末処理場いただきたい、これはどうもちょっと虫がよ過ぎるというか、あるいは相手がすんなり乗ってこないような気

がいたすわけです。しかし、これから交渉をなさってやるんだということの  
わけです。

館山市としては、どうしてもここを終末処理場とするということで行くわ  
けですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 全協でもお答えしたとおり、その周辺を終末処  
理場としたいということは初めからの考えでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 一本そのままストレートでいていないというこ  
とでお聞きしたいんですが、どうも私 — おかしいと言うとちょっと語弊ご  
ざいますが、この富士ディーゼルの敷地は館山市の都市計画道路八幡—高井  
線、バイパスから八幡神社おりて八幡海岸に来るこのライン上にあるわけ  
です。この八幡—高井線は既に一部供用されまして、国道から下、つまり踏切  
の近くまでは整備されてきております。その後の計画の中で、館山市は富士  
ディーゼルに対して、富士ディーゼル側の敷地約 1,000 平米をやはり購入さ  
せていただきたいという申し入れを行っているということは、あそこの線路  
があります。あれは館山勸業というんですか、あそこの都市計画街路を陸橋、  
高架でまたぐ。そのためにはどうしても富士ディーゼルの敷地約 1,000 平米  
をいただかなくてはいかんということで、既にやはり二、三年 — 2 年前か  
何かに富士ディーゼルの方に申し入れをしておるというふうに聞いていま  
すが、これは事実でございますか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 事実でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） では、この問題はどういうことになっております  
か。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 先ほど日下議員が質問の中に — 確かに 781メ

ートルだけは既に整備をされております。そこから — その下なんでもございますけれども、これは今の計画に対する先行取得でございます。その目的と  
いいますのは、今後館山バイパスの全線供用、さらには東関東自動車道館山  
線の開通など、期待される交通量の増加と踏切の遮断時間等を踏まえるとい  
うことでございます。そんなことで、これは実施したいと思っております。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） ですから、下水道及びその都市計画街路をそれぞ  
れ個別にくれというのはどうもいささか虫がよ過ぎるんじゃないかと思うん  
です。これはやはり多少無理をしてでも市長としても決断をすべきときだと思  
うんです、市長さんも大変難しい顔していますけれども。時間の関係もご  
ざいますんで、市長さんこれ — この問題について、市としてこれは難しい  
んだ。確かにこれはもう館山市の年間予算に匹敵するほどの金額であります  
から、多分そうなるでありましょうから、一般会計の、市として市長はどの  
ような腹づもりでいきたいのか、その辺を簡単にお聞きいたしたいと思いま  
す。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 御意見のとおり非常に価値ある土地でございます。  
多少の無理をしても市で取得したいんですが、多少の無理じゃとてもだめな  
んです。多少どころじゃございませんで、市の年間予算の総額打ち込んで  
まだ足りないぐらいでございますんで、実現は非常に困難だ、こういうこと  
であります。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 時間の関係もございますんで、この問題はこれで  
打ち切りますが、議会といたしましても市の方への応援をすることはやぶさ  
かでございますから、ひとつこれまたいろいろ研究した上でやらざるを得  
ないんじゃないかな、こう存ずるんですが、時間がございませんで  
次へ移ります。あるいはまた次回でお聞きいたすことになるかもしれません。

次の街並み景観でございますが、本来こういう自然公園内のものを規制か  
けるというならわかります。その線引き内のものについてその規制がかかる

というのはわかる。しかしながら、今まで線引き外にあったこの土地を線引き内と同じ規制をかけるというのはいささか規制が厳しいのではないか、こういうふうに思うわけです。今やはり — 規制の主なもの13メートルという高さ制限だと思ふんですが、今そういう — それ以上のものを建てようという方はやはりそれなりに研究していますんで、土地を買う場合に、ここは自然公園の中に入っているかどうかということをよく見定めた上で、ここは入っていない。ならば私はここに4階建てなら4階建てのホテルを建てられるということで当然土地の買収に入ると思ふんです。その買収でこれはいいなと思っているときに突如規制がかかりまして、おたくの方も隣の線引き内の規制区域内と同じものですよということではどうもこれきつ過ぎると思ふんです。

さらに、これはこういう規制をかけるならば、議会の議決を経る条例で決めるべきものであると思ふんです。それを行政指導だけででき得る指導要綱で出しておる。ここにも1つ問題があると思ふんです。これ議論するとちょっと長くなりますからあれですけれども、趣旨としてはわかりますけれども、一体これをいつからやろうということなんですか。これを早急にやりますと、本当の所有権の使用制限にひっかかってくるんじゃないかと思ひますけれども。

◎議長（福原 勲君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 今後全協、そういった方法で議員さんの了解をとりながら、次にPRでございますけれども、十分なPR期間を置いて、そして実施したいと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勲君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） この問題厳しく言えば、大変厳しいだろうと思ふんです。実際じゃあ今買った方はどうなるんだ。これはもうどうしてもホテル建てようという方もあったと思ふんです。計画を見ると、ずっとこれによって自然公園でなかったところがほとんど今度特別指導区に入りますから、これはその買った方はホテルを建てるといっても建てられなくなるわけです。



しかも、県道から50メートル山側から海側がすべて入るという規制になりますから、海岸道路は今まで規制なかったところはすべてこれで13メートル内のものに規制される。それはそれでいいんです、そういう街並み景観をつくるということです。ただ、何度も繰り返しますが、やはり土地を買った方がこれで建てられなくなったというんでは、これはいささか厳しくなるんじゃないか。ですから、救済ということではありませんけれども、十分なPR期間といいますか、そういうものをもって周知徹底せしめて、そうしてやっていく。

大体、条例で本来やるべきだろうなというふうに思っていますが、大体いつごろですか、めどは。来春とか、そんなところですか。あるいはこの10月— 年内にやろう、そんなところですか。大体わかる範囲で結構でございますが、あるいはこういうのは周知徹底させた方がよろしいと思うんです。これが先行されますと即この13メートル制限がひっかかりますんで、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） まず、全協の機会をとらえて皆さんに御説明する。それがいつになるかということでございます。12月以内にはしたいということ。それから、大事なことでございますので、PRのパンフをつくりたい。そして、それを周知徹底をしながらしていくわけでございますけれども、県がこの間の建築基準法をしても、やはり4カ月ぐらひはかかっております。そんな関係から早急にはできないなということで、いつからと言われてもちょっとお答えできないんですけれども、それだけの十分なPR期間を置いてしていきたいと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 今ここで、いつだと言うのも酷でありましょうから、12月に説明いたすということになると大体の時期は予測されますんで、それは結構です。

いずれにしても、十分なPRをしていただかないと、やはりこれは何人か

の大変 — かわいそうなと言うとちょっと語弊がありますが、場面が生じましようから、お願い申し上げておきます。

次に、駅前の街路ですけれども、この16メートル案が一とんざしているということですね。これは一度活動をしたんだけどだめだったんだ、こういうことの御答弁だと思うんですが、これはじゃあ具体的に今後動きがあるんですか。今はちょっととまっているわけでしょう。答えられる範囲で結構なんです、大体その賛成者 — 反対者もいたんだということだから当然動かなかったと思うんですが、これやはり今後この方針で原則としていくつもりですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 実は、6月にもこのような答弁をしたんですが、5月の末に地元の振興組合とも話し合いまして、今後随時やっていこうよ、そういった中で16メートルの道路はしていきたいと思っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 16メートル案が主力になってくるというふうに理解していいですね。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 以上のとおりです。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 現行の道路が8メートルなんです。現在大体8メートル。これを — 12メートル案を見てみますと — 私の質問範囲は松田屋さんから千葉銀行のあそまでの間ですが、あの127号線、あの道路松田屋さんのところで十字路がクランクするんです。きれいな十字路になっていない。ですから、12メートル案と8メートル案 — 今8メートル、現行8メートル、それを12メートル案にすると、あそこの松田屋さんのところは松田屋さんだけを4メートルすばっと切っていくんだというふうに計画はなっていると思うんです。もしなっていなかったら答弁のとき違うと言ってください

い。そんなことがあるんで、こちらサイドばかりとられるから、ここの方々はどうも——12メートル案でもだめなんだというような話があるんですが、そういう話は聞いたことがありますか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 確かに松田屋さんの周辺についてはそのような反対意見がございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） これはイフの問題言っていますんで、12メートル案でもなかなか実現しないものを16メートル案でいくんだ、こういうことですね。とにかく16メートル案でいくんだ。しかし、この12メートル案でさえもなかなか難しかりょうと思うんですが、どうなんですか、これ。事業的には割と16メートルの前に12メートルがあるんだらうけれども、これは時期的に何年か後にやるんだとか、10年後は別にして、大体12メートル案でもできると思いますか。どうなんですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 先ほどからの12メートルでございますけれども、62年の調査のときに提言されているのが、これは街路事業を基本としていわゆる面的な整備をしなきゃだめだよということです。要するに商店街の人たちが上の家屋についてもそれぞれいろいろな方法でしなきゃこれはできないんだということです。これからそういったことで、個々に3グループ、4グループあると思いますけれども、それなりの事情でもっていろいろな手法をとりながらこれを進めていきたいと思っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） だから、12メートル計画案もそれはでき上がっていますが、幸か不幸かあその松田屋さんが営業できないほどに12メートル案でくるわけです。今度16メートルという、また2メートルとると、松田屋さんが全滅してしまうほどのものになるのではないかとということになると、

どうもこれは16メートルというのはなかなか難しいなというふうに思うんですけれども、しかしながら館山市が16でいくというのならいいんですが、あそこの六軒町に安田生命が建築確認申請を出して、そのときの確認は何メートルで一体出されているんですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 16メートルでございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 12メートルで出されているんじゃないですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 訂正いたします。

向こうからはそのようでございます。12メートルで出して、うちの方からの指導は16メートルで指導しております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 12メートルは現行のものであるにもかかわらず、なぜ16メートルの指導が行われたわけなんですか。16メートルの指導をいたすことはなぜなんですか。相当実現不可能であろうと思うんですけれども、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） ここは16メートルでということで既に決定をしておりますし、これは――都市計画道路というのは5年や10年で終わる問題ではございませんので、堅牢な建物が12メートルにできてしまいますと、そこでもう既に12メートルでいってしまうということから、市はその安田生命に16メートルでお願いしたわけでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） そうすると、今後その街路について確認申請が出たものについては16メートルの中で指導するというふうに受けとっていいですね。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） そのとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 時間ありませんので、時間をちゃんとはかってください。40分まで私の時間がございまして、答弁を入れて30分ということは、40分ということでさっき見ていますので、時間がございせんので次へ移ります。

文化ホールにつきましては、行政、議会、住民が一体となってやっていくということでございまして、今後ともやはり庄司市長を中心に一生懸命やっていたきたいと存ずるわけでございます。特に再質問はいたしませんので、今後の御活躍をお願いするところであります。

最後に浄化槽について。これは6月に引き続いてお聞きするんでありますが、この問題は2つの側面があると思うんです。この浄化槽の20人槽以上については放流先と協定——話し合いなさいよということが館山市の行政指導で行われているわけです。であるから、63年でしたか、その時点以降は確認申請が出てくると、20人槽以上については協定書が必要になるということで、各漁協——ほとんど漁協が多いと思うんですけれども、漁協の協定書がなければ確認は県へ行かなかった、こういう状況下にあったと思うんです。その後市の御答弁は、協定書について特になくとも県の方へ進達いたしておりますよという答弁だと思うんです。この問題は2つの側面があるというのは、1つは同じ20人槽でも、民宿だとか旅館だとか、こういう地場産業といいますか、そういう方々の20人槽の問題と、もう一つがマンションだとかホテルだとか——今パチンコ屋というのが大分出てきておりますので、パチンコだとか、そういう外来資本というか、外貨資本というか、そういうものの20人槽とあって、この両方は明確に区別すべきものであるよというふうにとらえるべきだと思うんです。私が言いたいのは、地元の住民層——地元の要するに民宿だとか、そういうものについては、これは協定書もなくして通すというふうに行行政指導をしていると思うわけでありまして。それが1点。そういうことでありますかということです。

それともう一つは、今言いました開発絡みになるというか、マンションとかホテルとかパチンコ屋とか、こういう大資本との絡みの中の問題ですが、これら業者が終末処理場と協定を結ぶというのは、これは原則として民間と民間だから、それはそれでいいわけです。それはそれで仕方がない。これは市の方が行政をいたすということはある得ない。できないわけです。しかしながら、私の方に入ってくるそのうわさが——例えば何千万円のことを無利子で何年間預けるというふうなうわさがあるわけです。ですから、それは何度も言うように、民間と民間だから仕方がないんですけれども、本来それを協定書を持ってこいよというふうに行行政指導したのは館山市でございますから、そういう意味でそういううわさの出ないような前向きな行政指導をしていただきたい。

もうちょっといいこうと思ったんですが、私の時間と事務局の時間が違うようですので、その点だけを答弁いただいて終わりたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この問題につきましては、6月の議会が終わりましてから、いわゆる関係の建設業界の方々と漁業協同組合の方々とお話し合いをいたしました。そういう中で、基本的には海の汚染を防ぎたいということでございます。第1回の話し合いが先月行われました。これからも2回、3回と引き続いて継続されると思います。そういうことで、私どもは見守っていききたいというふうに考えています。

以上です。

◎18番（日下君敏君） 終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で18番議員日下君敏君の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後2時20分 休憩

午後2時59分 再開

◎議長（福原 勤君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、15番議員山中金治郎君。御登壇願います。

（15番議員山中金治郎君登壇）

◎15番（山中金治郎君） 発言のお許しをいただきましてありがとうございます。私はさきに通告いたしてございます6点——すなわち1、産業の振興策について、2番目として地縁団体の設立促進について、3番、市の人口増加策について、4、城山公園の登山道について、5、JR館山駅の改築促進について、6、リゾート開発とその後の経過について、以上6点について御質問申し上げますが、基本的な問題が多うございますので、事細かく質問いたしますので、市長さんの簡明かつ率直な御所見を承りたいと存じます。

まず第1点、産業振興策に——予算編成上と基本計画との間に大きな矛盾をするものを感じるのでございますので、その点についてお伺いをいたします。3月定例会において配付されました施政方針によりますと、第4に産業都市づくりとして、「産業の繁栄は、市民生活に活力と潤いをもたらす源でありますので、地域産業の発展と拡大を目指し」云々と産業の振興の重要性を御認識されておられますが、実際の予算編成を見ますと、例年の予算計上にたまたま本年度国、県の補助事業として決まった事業が組み込まれ、成文化された感じがいたします。予算編成上から申し上げますと、まず基本構想があり、それが基本計画で年度化されて具体的な事業の計画がなされ、その事業を該年度の財源事情から取捨選択し、編成していく手法が一般に容認される方法であり、理論的な正しい予算であると考えます。

一例を挙げますと、今一番苦しい商業分野にしても、基本構想では産業基盤の整備——これは何を指しているかよくわかりませんが、経営の近代化、それに流通機構の整備と近代化を図ると述べております。基本計画の施策の体系及び計画からは全然脱落されて、一言もありません。流通関係について、今から27年前の市勢振興調査は、流通経済の変様と商業経営のあり方という特に一節を設け、当市では今差し迫って深刻な問題はないが、流通経済の短縮化による配給費の節減の方向にあるので、零細経営や小規模経営の共同化、高度化した専門店化を推進し、次のような事業を考えるよう、1から8まで諸事業が挙げられております。その中に共同的マーケティング、広告、宣伝、陳列、市場調査、従業員の給食や寄宿舎、原材料や商品の共同現金仕入れなど、現在の基本構想と内容は同じものです。そういった流れは

27年も続いているわけですが、関連経費としては多少はあるかも知れませんが、予算上に明白にわかるものではありません。

こういう例は農業、水産業、工業分野にもあります。農業に関しては、構想では農地、隣地は都市に残された貴重な緑であり、土に親しみ、自然に触れ合う市民レクリエーションの場としての活用を図ると述べていますが、一方ではリゾート計画の促進のため予算化する、もちろんその兼ね合いもあると考えられますが、基本計画にはどの程度のものを活用するのか何も示していません。

水産業もしかりです。構想の前半は大体が補助事業で、構想になくとも実施される事業であるし、後半の後継者対策——観光と連携させ、市民のレジャー機能とあわせた漁業の生産の場として多角的に活用を図ると述べていますが、後継者対策として予算化されたものはない。国が120回通常国会に報告した漁業白書によると、漁業従事者は60年対63年対比で90.85%、当市のものは基本計画に60年がありませんので、58年対63年対比で82.52%、2年の違いがありますが、全国より早い速度で従事者数が減少しております。

このような現実を——基本計画と予算を比較検討するとき、大きな矛盾を感じます。これは制度的に考えて、予算制度がまず制度化され、存在し、その後に基本構想が制度化された経過から、予算優先的な考え方が残っているためではないかと思います。基本構想がまず存在し、その実現方を各年度間に展開していくため、その年の予算が編成され、進行されていく、これが現在の自治法の考え方であると思います。そして、常に予算執行後において効果の追及をなし、与外条件の変化に即応していく体制になければならないと存じます。百花繚乱する施政方針も結構ですが、ことしの館山に何が一番大事かということをもっと深く考えた予算編成であり、産業振興策であってほしいと思いますが、新年度の予算編成について事務的に準備する段階に入っている時期と存じますので、特に市長さんの御所見を伺いたいと存じます。

次に第2点、地縁による団体の設立と申しますか、市の認可により法人格が付与され、活動される規定が整備されたことについてお伺いいたします。去る4月2日付法律改正に伴う関係政省令が公布され、施行されたばかりで



すので、細部に至る通達がなされているかどうかはわかりませんが、本市内の町内会あるいは部落会でこれに該当する団体がかなりの数になるものと考えますので、あえてこの機会にお伺いをいたします。

御案内のとおり、地方自治法の一部改正により第 260 条の 2 が新設され、「市町村内の一定の区域に住所を有する者の地縁に基づいて形成される団体（以下「地縁による団体」）は、地域的な共同活動のための不動産又は不動産に関する権利等を保有するため市町村長の認可を受けたときは、その規約に定める目的の範囲内において権利を有し、義務を負う」と規定されております。地方自治制が始まって以来、市町村制及び地方自治法はこのような規定が存在しなかったために、現実に不動産を所有して運営していても団体ごとにまちまちであり、個人名義で登記するとか未登記のまま放置するとか、税の負担、運営費の負担などでも多くの問題を抱えておりました。今回の改正により、所有権を初め税負担の面でも、法人税法第 6 条の適用に当たっては公益法人とみなされる取り扱い等明確な運営の可能性が図られました。このため、地縁による団体を希望する団体が多くなるのではないかと考えられますが、認可権を持つ首長としてこれを積極的に促進していくのかどうかと申しますのは、この認可申請手続に一定の規定があり、一枚の紙でということではできません。したがって、先へ先へと延ばしていくことも考えられます。せっかくの法律改正の趣旨を生かされることがなくなりますので、規約モデル案の作成や、現在の地域団体等をあらかじめ調査し、手続方を促すとか、積極的な態度で臨むことを希望いたしますと存じますが、この点について市長さんの御意見をお伺いいたします。

次に第 3 点、市の人口の増加の具体策についてお伺いいたします。現在まで市の振興計画——名称は違っていても、実質振興計画で私ども普段目にするものが、昭和 39 年の市勢振興調査から平成 3 年の基本構想と基本計画まで数多くの振興計画が印刷、発行されております。そのいずれもが市の人口を基本的条件としてとらえ、目標値を設定し、それに近づくための年々の政策の転換もあるでしょうし、予算編成上の事業の選択もあるでしょうから、私は別に目標値の設定自体に疑義を持つものではありませんが、その数値が現

実感覚から余りにも離れますと、絵にかいたもちとなり、行政上からいっても好ましいものではありません。公表されている人口では、昨平成2年度の国勢調査人口は5万4,574人であります。他年度と比較しますと、6村合併の昭和30年の国調人口は5万9,416人、39年の市勢振興調査の基準年度ととらえた昭和35年の国調人口5万7,642人と比較し、前者では4,842名、後者では3,069人の減となっております。

昭和39年の振興調査の中で、人口について126ページではこんなことを言っております。「ある国の繁栄に関する最も決定的な指標は住民の数の増加であるとアダム・スミスという経済学者が書いた国富論に書かれている。そして、国、県、市でも人口が重要な意味を持つ」とあります。この振興調査は昭和38年に行われたようですから、今から27年前に市人口を認識しつつ、その増加策に努力をされてきました、そのように考えられますが、その結果はさきに申し上げたとおり、人口減とならざるを得ぬ結果に終わりました。各振興計画におきまして、市はその年度までの人口減を認めた上で、いろいろな経済の与外条件を考慮し、あわせて市の施策を実施していかなばという厳しい認識をした上で振興計画を策定、事業実施をしまいたったものと考えますが、約30年間にわたって人口減はとめられなかった、市長さんはこのように考えられたのか、本年度分では過去の振興計画を見れば一段とトーンと落とし、5万6,000人に抑えてありますが、この目標達成のため、市はどんな具体策をお持ちであるのか、お伺いをいたします。

第4点、城山公園の登山道についてお伺いをします。城山公園は山上に茶室と日本庭園の完成で一応の計画は終了と聞いておりますが、登山道と言うと大げさな言い方ですが、この道路は急な坂道で、階段もあり、来園された身障者、老人、観光客の中にはあきらめて帰る人やバスの中で休んでいる人も相当見受けられます。公園ですから、近隣の人たちが散策を楽しみながら登りおりするというのが大変大事なことだと思いますが、本来天守閣の再建は観光上からも要請されたものと聞いております。そうでなくても、山上が整備された現在は市内での観光施設として多数の人たちに利用されております。遠方から時間で決められ来園する人、特に老人の方々には何らかの登

山の方法を考えてやるべきだと存じます。一部を車道として車の中から風景を展望することもいいでしょう。また、エレベーターやエスカレーターなどその方法はいろいろと考えられると思います。人の集まるような遊び心を考えなければ投資の効果は生まれません。公園として整備したから歩道以外は考えないというかたくなな考え方ではなく、この場所で時間をとり、館山で泊まろうとする人をふやすべきであると思います。今のままでは投資は衰微するばかりです。城山には14億を投資したと聞いております。これは市民1人当たりにすると約2万6,000円弱の金額になります。この貴重な額の100%の投資効果を上げるたにも何か考えられる方法があると思いますが、この点について事務的な御答弁ではなく、館山市民の市長としての御所見をお伺いいたします。

第5点、JR館山駅の改築促進についてお伺いいたします。この件は前にも質問いたしました、市長さんがかわりましたのでお伺いをさせていただきます。状況は前と違っておりません。東口の再開発の件についてはたびたび質問が出ておりますので、重複する点は御容赦いただきたいと思います。

現在、日本で都市のほとんどが鉄道の駅を中心点に市街が展開、発展しております。当市でも例外ではありません。駅前再開発事業が進捗しないのも、駅前の地域の変更は営業上に大きな影響を、それもマイナスの要素が強いと感じられているのではないかと思います。これなども加えて、老朽化しつつある館山駅を観光館山の表玄関としてふさわしい建物として改築するよう関係機関に促進方を働きかける時期であろうかと考えますが、改築の方法等につきましては、第三セクター方式などもその1つの方法かと思いますが、早い時期の改築も可能であると考えられますので、こういう点について市長さんのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

最後に、リゾート開発の状況についてお伺いをいたします。過日の新聞に市原市のゴルフ場の新增設に凍結宣言をした旨報道されておりました。また、隣村の三芳村においても賛否があり、討議されておるやに聞いております。当市にもゴルフ場の新設計画がありますが、バブル経済の終末とともに種々障害が出る可能性もありますが、その後のリゾート開発の経過について伺い

たいと存じます。

以上で通告による質問を終わらせていただきますが、市長さんの事務的な御答弁ではなく、また古い経過にこだわらないで、御所見や抱負をぜひお聞かせくださるようお願いをいたします。御答弁により再質問をさせていただきます。

御清聴ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの山中金治郎議員の御質問にお答えいたします。貴重な御意見を拝聴いたしましてありがとうございました。

大きな第1点目、産業の振興対策についての御質問でございますが、現在館山市域を取り巻きます状況は大きく変わろうとしております。御案内のとおり、東京湾横断道路を初めとする国、県のビッグプロジェクトの推進に加えまして、半島振興法並びに総合保養地域整備法によります地域指定を受け、リゾート地としての整備とそれに関連する諸事業が着々と進められております。従来の半島性から脱却して大きく飛躍する転換期を迎えようとしております。館山市におきましては、基本構想に定めました将来都市像「活力ある文化福祉都市」の実現を目指しまして諸施策を展開する中で、特に産業文化の振興による地域活性化を大きな柱として、海洋性リゾートタウンのまちづくりを積極的に推進しておりますことは御案内のとおりでございます。平成3年度施政方針でも述べましたが、本年度予算の目標を地域活性化の推進といたしまして、地域経済の振興対策、都市基盤整備を重点課題といたしまして、調和のとれたまちづくりを目指し、予算編成をしたところでございます。平成4年度につきましては、引き続き創造力と活力に満ちた産業都市づくりを目指しまして産業振興対策に取り組むとともに、房総リゾート地域整備構想に基づく諸計画や企業誘致の基盤となるインダストリアルパーク計画の推進に努めてまいりたいと考えております。

大きな第2、今般の地方自治法の一部改正により、町内会等の団体が市町村長の認可を受けて権利能力を有する法人格が得られますことについて、こ

れを促進したらどうかとの積極的な御質問でございますが、御承知のようにこの認可の目的は、町内会等の団体が不動産または不動産に関する権利等を保有するためでございます。したがって現在不動産を保有し、または保有しようとする町内会等が認可の対象となります。市といたしましても機会をとらえ、この制度につきまして御意見のごとく積極的に周知徹底を図ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、館山市の人口増加対策についての御質問でございますが、人口問題は一地域だけの問題ではなく、全国的な問題であるということは御案内のとおりでございます。館山市の人口はしばらく5万6,000人台で推移してまいりましたが、平成2年の国勢調査の速報値では5万4,574人となっております。その主な要因は、結婚年齢の高齢化、女性の社会進出に伴う出産率の低下や若者の流出等のほか、東京一極集中による地方の人口減少ということも少なからず影響しているものと考えられます。現状のまま推移した場合には、人口が減少すると同時に高齢化が一層進むものと見込まれますが、東京湾横断道路、東関東自動車道館山線、かずさアカデミアパーク構想などの大プロジェクトの進展と、総合保養地域整備法に基づきます民間リゾート開発計画、インダストリアルパーク計画、広域的水道整備計画等の推進を図るとともに、産業振興対策等を積極的に取り組むことによりまして今後の人口問題に対応してまいりたいと考えております。

次に、大きな第4、城山公園の登山道についての御質問でございますが、昭和55年度から基本計画に基づき都市公園として整備を行ってまいりまして、平成元年度に当初の計画が完了したところでございます。この公園は、広く市民の方々に潤いと安らぎを提供するとともに、憩い、集い、そして文化教養の場としても親しまれ、また観光面におきましても重要な拠点となっていることは御案内のとおりでございます。山頂からの眺望は格別なものがありますが、そこに至る園路を散策することにより、丘陵と市街地の織りなします変化に富んだ展望も楽しめると同時に、体を動かしながら豊かな自然との触れ合いにより、心身ともに健康増進が図れるものと考えますので、現状の施設の維持管理を主体的に行いまして、人為的变化を加えることはできる限

り避けてまいりたいと考えております。

なお、心身障害者及び高齢者等歩行の困難な方につきましては、車での利用をいただいているところでございますので、御利用いただきたいと考えます。

次に、大きな第5、J R 館山駅を観光館山の表玄関としてふさわしい建物に改築するよう関係機関に促進方を働きかけたらどうかとの御質問でございます。御趣旨は館山駅を駅前再開発の局面打開策として駅ビル化する考えはないかとのことでございますが、J R 館山駅については、基本的に館山駅東口地区再開発、西口地区土地地区画整理事業等を含む館山駅周辺市街地整備計画の中で、東西両地区の一体性を確保するためのものとして位置づけております。館山市基本計画に沿いまして、J R 千葉支社等と協議を行いながら、自由通路の建設の促進化を図っているところでございます。駅舎を駅ビルにすることにつきましては、駅ビル建設に対しますJ R 千葉支社の消極的な意向及び駅ビル建設に伴います商業床と既存店舗等との調整問題等を考えますと、非常に困難であろうと考えております。したがいまして、第三セクター方式については現段階では検討しておりません。

次に、大きな第6、リゾート開発のその後の経過についての御質問でございます。島田議員の御質問にお答えしましたとおり、総合保養地域整備法で承認されました民間大規模開発プロジェクトはそれぞれ県との協議に入り、太陽海岸平砂浦計画につきましては事前協議中であり、南たてやまマリンパーク計画につきましては内協議中でございます。協議の中ではさまざまな課題もございますが、地元及び関係者の理解と協力を得まして積極的にこれが推進に当たっているところでございます。

以上で終わります。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 懇切丁寧な御答弁ありがとうございました。

それで、私はこの質問書をつくってみて、いろんな資料を見ながら考えたんですが、館山市はもう市制をしいてから50年も経過しておりますので、非常に皆さんよく勉強されておるということをつくづく感じました。先ほど言

いましたが、30年前に書いた構想が、今でもまだそれが生きているようでございますので、非常に頭脳明晰な行政の職員が多いのに驚いたわけですが、私はもう館山は考えているときじゃないと思うんです。もう幾らいい案でも、ただ考えて書いてだけではしょうがない。もう実行する段階に入っておると思いますので、ひとつやる気を出していただきたいと思います。

それで、質問申し上げますが、産業の振興対策の中で — いつものようにこれは総論に終わっておりますが、その中で海洋性リゾートタウンのまちづくりとインダストリアルパーク計画ですか、これを積極的に進めるように言われておりますが、まずその海洋性リゾートタウンのまちづくりを進めていく、その現在進めておる内容とその進んでおる状況をちょっと簡単にお伺いをいたしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまの御質問でございますが、海洋性リゾートタウンの中核拠点としてウエルネスリゾートパーク計画がございます。加えまして、先ほど市長が申し上げました南たてやまマリンパーク、太陽海岸平砂浦計画、これらを推進しているところでございますが、それぞれ連携によりまして、総合的なリゾート区の、リゾート地域の形成を図ってまいりたいと存じております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 今の中でウエルネスリゾートパーク計画ということで、これは公共で進めておるようでございますが、もう用地の取得にも入っておるということのようですけれども、その進行の進捗状況とその中心となる施設についてお答えいただきます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） まず最初の進捗状況でございますが、現在用地の先行取得を進めるべく、地権者並びに地元の代表者の方々との協議を進めておるところでございます。

その次に、2番目のウエルネスリゾートパークの中心施設ということでございますが、ウエルネスをテーマといたしました健康文化施設とスポーツ施設でございます。ちなみにこの健康文化施設と申し上げますと、クア施設——これは温浴と申しましょうか、この施設、それからコンサートホール、工芸センター、コンベンションホール等でございます。スポーツ施設といたしましては陸上競技とそのほかでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） この構想は何年ごろ完成を見込んでやっておるんですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） おおむね10年——ウエルネスにつきましては10年先になろうかと思えます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 次に、インダストリアルパーク計画でございますが、この計画の中へどういった企業を誘致するというようなものも考えありましたらお聞かせ願いたい。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） これは当たり前と言えそれまでですが、産業としての成長性があり、公害の心配のない、水を余り使わない、製品等のまた輸送運賃が余りかからないタイプの業種と申しましょうか、これを考えております。ちなみにどんなものかと申し上げますと、食品加工あるいはインテリア用品等の製造業、先端技術の分野の業種としましてはエレクトロニクス系、それからバイオテクノロジー系、ソフトウェア系、こんな業種になろうかと存じます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 私がどうしてそういう質問したかと申し上げます



すと、この館山市で学業を終えた、学校を卒業した人たち、また東京の大学を終えた人たちが就職できるような企業をお願いしたい。そういった若い人たちが館山を後にして、現在館山で生活して働いている人たちを求めるということでは非常に私は困ると思う。その1つの例を挙げますと、富浦のロイヤルホテル——すばらしいホテルができました。あれができてオープンしたところが、館山市内のホテルの従業員が相当数引き抜かれて、非常にホテルの経営者は困っておりました。ですから、そういうことがあっては私非常に困ると思うんです。ですから、私がお願いしたいのは、今言いましたように学校を終えられた若い人たちの職場になるような企業を誘致していただきたい。今相当この労働者が、勤労者が減って企業が困っておりますので、なお一層の混乱を招くようなことのないように、そういうことを念頭に置いて企業の誘致をお願いをしたいと思います。これは県の事業であるかと思うので、答弁を求めてもしょうがありませんので、そういう考え方でひとつお願いをいたしたいと思います。ひとつよろしくお願いを申し上げます。

次に移ります。次の地縁による団体の設立でございますが、これは公益法人の設立手続につきまして、今議会の議案で第32号、館山市の市税条例の一部を改正する条例の制定についてということで提案されておりますので、この問題を取り上げて、早急にこれを実施していくお考えだと思いますが、ただ1点だけ、これに該当するような町内会ですか、区といいますか、そういう団体がおよそ何団体ぐらいあるのか、もしおわかりならお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 御承知のように、現在いわゆる区有地としての登記はございません。そこで、どこの町内会に——そういう区あるいは不動産を持っている団体か現時点で把握してございませんので、数字わかりません。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 私は真倉でございますが、真倉の区長をやっておりますが、この問題に非常に関心を持っておる一人でございます。と申し

上げますのが、今まで質問の中で申し上げましたが、このような規定がなかったために非常に混乱を生じておる部落が何カ所か現実にありますんで、こういう法律が通りましたので、ひとつ一日も早くこの問題を解決をしていただいて、各町内会長、区長にこの趣旨を徹底して御指導していただいて、いろんな書類を提出してもらって認可をしていただくということで、そういった公益法人の資格が得られれば、今度今まで個人名義になっておったものが、代表名義になっておったものが実際に町内会とか区としての届け出登記ができますので、後の問題がなくなりますんで、ひとつこういう問題で苦しんでいる町内会がかなりあるかと思いますので、早急にこの問題を進めていただきたいと思います。ひとつお願いをいたします。

それで、次の人口問題でございますが、これはもう当然産業の振興計画とか、そういうふうなものを着実に実行すれば、この問題も当然そのような人口増につながるかと思いますので、そういった振興計画を着実にひとつ実行していただきたいと思います。これは要望を申し上げます。

次の城山公園の整備でございますが、これはあの公園を、あの道路を、城山へ上がる道路を散策していただくという考え方になっておるので、そういった人工的に手を加えることは考えないということでございますが、私は観光資源として考えたときに、どうしてもやはりそういったことを考えていただきたいということを思っておりますが、これは将来ともそういうことは絶対にやらないんだということですか、その点をお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 現状においてはということで御了解いただきたい。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 私は先ほども言いましたように、観光客をもっと余計館山へ誘致すると考えた場合には、今館山市の市内のいろんな施設として、あそこは重要な観光の拠点となっておりますんで、ぜひお願いをしたいと思います。

と申し上げますのは、今毎年館山でJRと協力して行っております — ポピー・アンド・ストロベリー号という車を実は運転しているわけです。1月

から5月の初めまで、これは年間30日ぐらいしてございますが、花とイチゴということでお客さんを誘致しておるわけでございます。その間にですから花摘みをして、そして植物園を見て、それで城山に寄ってあれを散策をして、それでイチゴ狩りをするというコースなんです、これはどうしてそうなったかと申しますと、あの城山を、館山城をつくられた半澤市長がたってその計画の中へ城山を入れてくれ、コースへ入れてくれということでそういうコースを設定したわけです。それは博物館の館長に聞いてもらえばよくわかりますけれども、ところが最近の会議やりますと、城山に行って1時間の余裕をとってあっても、どうもあそこは人気が悪いんだということなんだ。よそから来たお客さんに非常に人気が悪い。といいますのが、今言ったようにわずかの時間の間の中に上へ上がってあれを見ておりてくるということなんだ。ですからそういうのと、上へ上がって、駆け足で上がっておりてくるのは疲れちゃうからということでバスの中で待っている。あの周りには何にもないということ。

ですから、私はそういうことを考えて、やはり観光客を誘致する1つの目玉になっておりますから、私は今のようなかたくなな考え方じゃなくて、あそこにそういうものをつくっても——今まで14億をあそこへ投資してあるわけですから、あとそこにわずかな金を上乗せすれば14億が生き返るわけなんだ。今のままでは観光という面から考えればあれ死んじゃっているんです。その辺何とか考えてもらえないか、もう一回——どうですか、その辺を考えて、将来そういうものを何とかとり入れていきたいという考え方になりますか、もう一回御答弁をお願いしたい。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） あそこにそういうような施設をつくれるような館山市になってほしいなと考えるんですが、現状においてあそこに億の、2けたの予算を投入して大きな施設をつくるということは、とても現在の市の状況、また市民感情からしても許されるものじゃない。現状においてはですから困難だ、将来はそうあってほしいということを考えるわけなんです。

◎15番（山中金治郎君） どうも答弁聞いていると情けなくなっちゃいま

すが、これは幾らお伺いしても同じ答弁が返ってくるかと思しますので、先に進ませていただきます。

J R の館山駅の改築の問題でございますが、その前にそれに関連があるのでお聞きいたしますが、この西口の計画は非常に進んでおりますが、東口の方の再開発の状態が先ほどのいろんな質問の中でもストップしておるようでございますが、何か先ほどのお話では3分の2の人が賛成だということ。ということは、3分の1がだめだということだと思ふんです。これはいろんな理由があろうかと思いますが、幾ら反対があってもあくまでも最初の計画どおり東の再開発は進めるんだというお考えですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 先ほどのその3分の2というのは六軒町の街路計画でございますので、ちょっと御訂正願いたいと思います。

それで、東口の再開発でございますけれども、あのような事態であっても市としては商業者ともう一度話し合いながら進めていきたいと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） それともう一つ、都市計画道路——22メートルと言いましたが、その道路が設定をされておるようでございますが、それは駅前からどこまでかということと、これはあくまでも都市計画道路は計画どおりやるのか、変更が——私は現実に非常に無理なように考えられるんですが、変更はできないかという2点についてお伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 都市計画道——いわゆる331ということですが、今、駅前広場から六軒町のいわゆるお諏訪様という諏訪神社のところまで450メートルの間でございます。

そして、この変更はできないかということでございますけれども、非常に難しいことで、人がせっかく定めたんですから、習慣ではないので、変更はできないとは言えませんが、現状の東口を再開発をしていくのにはや

はりその道路は必要かと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 今のことなんですが、駅前からお諏訪様のところで終わりなんだというようなことなんですが、それは私前にも聞いておりますが、その辺は私はここにおられる議員の皆さんも、どなたが聞いても何だお諏訪様のところまでかということだろうと思うんです。ですから、これはやっぱりその辺のことをもう一回私は検討すべきじゃないかと思いますが、これはまた答えが同じかと思しますので、また別の機会にこの問題取り上げますが、私はそれらの今の2点をお伺いして、非常に何か壁にぶつかっているようなふうに考えられるんですが、何がこれはどういうわけで反対に遭っているわけですか、ひとつその点をお伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） これは推測ではございますけれども、東口の再開発にはいわゆるこの趣旨に賛同なさらない方がおるわけですが、そこには代替地だとか、それからバイパスに大きなデパート等ができてしまうのではないとか、あるいはその再開発をしてもいわゆるその自分の土地がなくなってしまうのではないとかっていろいろあるんですけれども、それでその1つの問題として、22メートルの道路が大分批判されるわけですが、このお答えにはちょっと違ってしまいうんですけれども、22メートルの道路ということよりも、もう一度この時点でその22メートル道路を含めて、商業者の皆様と一緒にひとつこの必要性を話し合っていっていいんじゃないかしらと思います。一番の問題は、商業者がその再開発をしたら一体どうなるんだろう。いわゆる利潤が上がるか上がらないか、そこら辺がきちっと保障されれば、たとえ22メートルの道路であっても、あるいは権利の床が、土地がなくなってしまうとかということもありますけれども、最終的にはやはり利潤の追求だと思います。その不安というものがこの東口の再開発の大きな問題じゃないかしらと思います。

そんなことで、こういったことを全体をもう一度皆さんと話し合って、東

口があのみまではやはりまずいと思いますので、ゆっくりと、しかも時間をかけて、そして真剣に商業者と市と、それから住民とで話し合っていっただらば1つの結論が出るんじゃないかしらと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 要するにあの周辺の住民の皆さんが今よりはマイナスの要素を私は非常に強く考えているんじゃないかと思うんです。ですから、私は前にも申し上げましたが、やはり現在よりは有利になるような、そういうふうな条件といいますか、そういうような考え方になるようなことで話をしていかないと私はまとまらないと思うんです。そういった面から、私はこの駅の改築に絡んで前にもその駅ビル問題を私取り上げたことがございます。あのときは実際にあの駅前で反対している人に私会ったんです。あんな方猛烈に反対しておるけれども、どうだい、駅ビルの中で商売できたらどうなんだ、いやそれなら賛成だよとすぐその賛成の声がはね返ってきた。それが現実なんです。ですから、私はそういった問題を含んで、この駅——これは駅が——これは都市基盤の整備にしても駅がこれは中心ですから、都市計画の中心が駅なんですから、まず駅を——ぴしっとしたふさわしい駅をつくって、それから周辺の整備に入るというのが手法じゃないかと思うんです。

それで私申し上げたんですが、先ほど答弁の中で、この駅の改築、そういうふうな駅ビルのようなものはＪＲが非常に消極的で、考えていないんじゃないかということですが、実は私も質問する前にＪＲの方の千葉支社にも行ってきたし、いろんな人と会ってみまして、ＪＲ関係の、そうしましたらすぐ返ってくるのが——これは複線の問題にしても立体交差の問題にしてもそうなんだ。すぐ返ってくるのが、今のようにＪＲの利用者がこんなに少ないんではとてもだめですよということなんだ。それだからやろうとしないわけなんだ。それで、彼らの中でこの館山の——私がこの前噴水の問題取り上げましたが、それを知っている人がいて、会長さん、あんたのああいっただけ切った観光資源開発を館山市が実行してくれれば、もう首都圏の人はＪＲを

利用してくれるのは明白なんだから、複線ももちろん考えましょうよ、民衆駅も考えようじゃないか。だから、我々にそういうことを言う前にそっちの方の計画を進めなさいと私言われたことがある。ですからそのときに、いやあの問題も1つの問題を提起してあるんで、これはやっぱり組織を——組織立った行動を起こします。もしだからそういったものが——世界一の冠をかぶせるものがもしそういう方向に向いたらJRもやりますかって、やりますよということことなんだ。そういうことが返ってくるんです。

ですから、やはり館山に大勢の人が集まってくれるということが明確になってくれれば今私が言ったようなことすべて解決するわけだ。人口問題にしても産業の振興にしてもすべて私解決すると思うんです。ですから、私はそういうふうな方向でもう少し——理論ばかり言っていないで、理屈ばかり言っていないで、思い切ってやっぱり市民全体を考えて汗をかいて、がっちりと結束をしてそういう方向を打ち出せば私は早急に解決すると思うんで、ひとつそのような方向で行政の方も取り組んでほしいと思います。

それで、最後にリゾート開発の問題でございますが、先ほどの御答弁の中で概略了解をいたしました、その中でこの海の問題、海の——海浜部のことについては県の方針がありますということでございましたが、これは県の方針というのはどういう——県はどういうふうに海の開発は考えているんですか。県の方針はどういうことか、その点についてお答え願います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） お答えいたします。

2点ございます。まず第1点目でございますが、富津から銚子に至る水面は、一般の水面は開発ができないことになりました。港湾区域もしくは漁港区域内ということになりました。さらにもう一点は民間での事業はできないという点でございます。したがって、港湾ないし漁港区域内の場合には、例えば千葉県であるとか館山市であるとか漁業協同組合であるとか、また第三セクターならばよろしいけれども、民間企業は相ならぬ、こんなふうになっておるわけでございます。ただいまの開発と申し上げますか、事業を進める——例えば市とかそういう公共的でやる場合におきましては、南房総

半島振興計画に位置づけられたマリーナ等に限る、そういったものだけに埋め立てが可能である、こんなふうな状況でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 先ほどの御答弁で、相浜ですか、相浜の埋め立て計画についてはどうも余りいい答弁ではなかったように思いますが、あれはリゾート計画を策定をして、それで県に出して、国の認可を得たときにはあの人工島をつくるということがそのままオーケーで私は認可されたように考えておったんですが、その問題も最初からだめだったんですか、相浜の問題は。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 私どももそのままの計画で進められる、こんなふうに思っておりました。しかしながら、ただいまの県の海の埋め立て方針というのはこの3月に出てまいりまして、したがってあそこは当初の計画では一般の公有水面でございますので、今回埋め立てできない、こんなふうになるわけでございますので、港湾、漁港区域内に変更せざるを得ない、こんなような状況でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 随分私はおかしな話だと思うんですが、一たん国が認可しておいて、途中からそれを変えていくということはちょっと考えられないことですが、民間じゃそんなことしたらえらいことになっちゃいます。やっぱり国や県だからそれで済むかと思って、非常に私は不屈きな話だと思うんですが、しかしそういうことも——やはり国会議員もいるし、するんで、やっぱり政治的にもう少し動いてみたらどうかと思いますんで、その点についてはひとつ強硬に私お願いいたしたいと思います。

それと、西岬の方の関係でございますが、今のお話ですと、民間で埋め立てはだめなんだ、あくまでもこれは市とか県がかかわって埋め立てをしなくちゃだめだということのようですので、しかしそれを——ああいうリゾート



計画を軌道に乗せてどうしてもその計画を実現をさせるんだという考え方であれば、もっと市も積極的に関与していただきたい。それでないとは私は――幾ら民間が力入れたって海の問題もうだめなんだということのようですので、しかし市が積極的にその問題に入っていって海にかかわるこのリゾート地の完成を期していただきたいと思いますので、ひとつよろしく願いをいたします。

以上で終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で15番議員山中金治郎君の質問を終わります。

次、9番議員脇田安保君。御登壇願います。

（9番議員脇田安保君登壇）

◎9番（脇田安保君） 大分時間もたちましてお疲れのところ、最後かと思えますけれども、御清聴のほどをよろしくお願いします。

私は9月の定例会の審議に先立ちまして、日々接する市民の声を取り上げまして、何点かにわたって御質問申し上げます。庄司市長は長年教育畑を歩いてこられ、見識も深く、教育現場での経験も豊富であり、21世紀を目指す教育について進歩的なお考えもお持ちであろうと思われるので、今回の質問は教育問題を中心にしまして、福祉対策、都市マスタープラン、観光対策などについての質問を含めて行いたいと思います。

まず、教育問題については、第1点、C A I教育について、第2点、学校でのプール病対策について、第3点、一輪車をスポーツ教材にしてはどうか、第4点、生徒の通学について、以上4点についてですが、まず第1点目のC A I教育についてですが、これはコンピューターを使った教育で、新学習指導要領に初めて盛り込まれ、来年度から小学校で全面实施されるに伴い、ソフト開発競争に拍車がかかっているのです。現在は解答させて採点をするドリル型だが、生徒1人1人の能力に合わせた問題を出したり、思案方法の誤りをチェックし、是正を求める高度なソフトの研究が進んでいます。国語などは人間性型教師の方がよいが、数学などの論理型はコンピューターの方がわかりやすいという時代に入ってきています。このC A Iはここ10年ほど急速な普及を示していますが、文部省中学課によると、昭和51年度に公立の小

学校で 0.6%、中学校で 3.1%の学校しか導入されていなかったのが、平成元年度には小学校31%、中学校59%に導入されるに至ったのであります。今後ますますこの傾向は大きくなっていくと思われるのですが、我が市における教育現場においてのこのC A I教育がどのように評価されているのか、またどのような問題点や改善点が考えられるのかお聞かせ願いたいと思います。

次に、第2点目の学校でのプール病対策についてですが、次のような記事が某新聞に掲載されました。「船形小学校では先月20日ごろから高学年の児童を中心に欠席者が始り、7月に入って急増し、多いときで1日50人が学校を休んだ。いずれも水泳授業の後発病や下痢、目の充血などの病状を訴えており、プール熱の疑いが強いと言われている。また、県学校保健課では、管内61校に対して文書で異例とも言えるプール指導における健康安全管理の強化を通達した」という報道がありました。この原因はともあれ、こうした事態が起きたことは今までにないハプニングでありました。また今後このようなことが起こらないようにしなければならないと思います。事前の対策も必要であろうと考えられます。

そこで質問であります、こうしたプール対策について当局はどのように分析をしておりますか、また今後どのような対策を考えているのかお聞かせ願います。

次に、第3点目の一輪車をスポーツ教材にしてはどうかという質問であります、先般テレビで、消防操法大会の会場で、開会前にたくさんの小学生が火の用心ののぼりを手にして一輪車に乗り、参加した姿を見たのであります、一輪車を生き生きと自由ほうだいに乗りこなす子供たちの姿を觀賞し、個性重視、創造性が叫ばれている学校教育の中で、一輪車は児童生徒に対してスポーツ教材として実に有意義な効果が出るのではないかと痛切に感じたのであります。

そこでまず、一輪車の効果と魅力としては、1、現在子供に欠けていると言われている自立の精神を、不安定な一輪という状況下で自分で立ち上がり、乗り越える中で培える。2、身体の健康に非常に有益で、スタミナ増強に役立つ。3、現在児童の間で増加傾向にある肥満対策にも役に立ちます。4、

小学生時代は一番敏捷性を養わなきゃならないときであり、その意味では非常に刺激的なスポーツであります。5、個人で楽しめ、かつグループ競技も可能であり、その総合パターンや競技の組み合わせの操作には美的感覚や創造性を伴います。6、公園、路地、室内等どこでも乗ることが可能な理想的なスポーツである。7、ユニークな不思議さで、男女を問わず魅力的であるなど、以上特徴や魅力を申し上げましたが、これらの理由で一輪車を学校教育のスポーツ教材に取り入れたらどうかと思いますが、この点についてお考えをいただきたいと思います。また、現在全校で一輪車を購入しているのかお伺いしたいと思います。

次に、第4点目、生徒の通学についてであります。学校統合に伴い、バスや自転車通学を始めてから十数年を経過しましたが、この間における問題、今後の問題などについて教育長の考えをお尋ねいたします。

初めに、通学バス停留所の位置と自由乗降の問題であります。現行の停留所は通学バスが運行を開始したときに定められたものでありますが、位置を選定するに当たっては、地域住民の意見を尊重し、決められたものです。つまり、子供の数が集中している地域に停留所が定められました。しかし、それから十数年も経過しますと、当時の子供たちは卒業してしまい、集中している地域も移動しますが、停留所位置はどのように決めているのか。

次に、自由乗降についてであります。乗客数の多い地域でこの方式を導入することは困難かと思われませんが、乗車人員の少ない通学バスでは可能ではないでしょうか。この方式についての考え方はどうですか。

次に、自転車通学対象者の補助の問題であります。徒歩、自転車、バスと対象者は自宅から学校までの距離によって定められておりますが、特に自転車通学の対象はわずかな距離の差で補助の対象にならないので、行政の公平の上から問題があるのではないかと考えられますので、その点についてのお考えをお示し願いたいと思います。

次に、福祉作業所の現況と将来についての質問ですが、館山市福祉作業所の条例によりますと、本市は在宅の心身障害者であっても、雇用されることが困難な者に対して社会生活における適応性を高めるよう指導を行い、その

自立、助長を図るため福祉作業所を設置するとありますが、つまり知恵おくれの子供らは社会的な生活能力に欠け、社会に出て雇用される機会が少ないし、作業能力も十分に育っていないので、施設の訓練が必要であります。しかし、現実にはなかなか厳しいものがあります。入所を希望してもなかなか入れないとか、技術を身につければ100%雇ってくれるかどうかという将来の不安などの悩みは尽きないようです。

さて、そこで福祉作業所は条例では19名の定員となっていますが、何名まで入所可能なのか、また将来の拡充計画についてお尋ねいたします。

また、御存じのように知恵おくれ、精薄者の更生施設として中里の家が62年に設置され、平成2年に施設を増設し、定員を50人から80人にふやしております。これらは明らかに施設の不足を物語っているのです。この事業は国でやるべき事業であるとか県でやるべき事業であるとか言われていますが、精薄者の施設の不足の現実を直視されてどのような所感を持たれているのか、ぜひお聞かせ願いたいと思います。

次に、都市マスタープランについてですが、このプランは予定としては平成3年度から2カ年で策定作業を行い、平成4年度の末には完成というように伺っています。この都市マスタープランの質問ですが、館山市総合計画の基本構想を具体的に実現する下敷きになるプランであろうと思います。その基本構想ですが、まず第1章、まちづくりの基本理念、第2章、館山市の将来像、第3章、人口見通しと土地利用構想、第4章、将来像を実現するための課題と方向などから策定されています。そして、今回の都市マスタープランはこれらをベースにして、21世紀に向けて館山市のあるべき姿をプランニングしたものであらうと思います。都市計画道路との関係も出てきますし、県道や市道の絡みも出てきます。このように考えますと、これから策定する都市マスタープランは、すべての道路の効率的なネットワークを考慮し、都市発展の視点に立ち総合的にとらえ、将来の交通道路にふさわしい計画でなければならないと思います。

このような将来的視点を踏まえて御質問いたしますが、この件に関しての本年度の予算額は690万になっております。引き続き次年度においても予算

の計上が当然あると思います。さて、このプランの策定については本年度末まではどの程度策定していくのか、また次年度ではどのように完成していくのか、段階的な策定のプロセスがあると考えられます。そこで質問ですが、現在この計画はどのような内容で進められているのか御質問いたします。

最後に観光対策ですが、先ほども山中議員からございましたが、私は海の方に関してお願いしたいと思います。この問題については、ことしの夏の海水浴や観光シーズンは終わりましたが、正確な統計はわかりませんが、ことしは今までになく訪れる人が少ないという声が海の家や観光業者の間でささやかれています。そして、これを裏づけるように、国道 128 号線での交通渋滞は、休祭日以外の日も比較的スムーズに車が流れていました。一体この現象は何をあらわしているのか。そこで考えられるのは、内房の道路事情の悪さ、J R 特急が千葉駅を素通りし、県都周辺の人たちが交通の便の悪さから県南の海水浴や行楽を敬遠したのではないだろうかとも考えられます。また、都内の周辺には大型のさまざまな趣向を凝らしたプールなどが各地にオープンし、テレビで大々的に宣伝していることから、客足をとられたものとも考えられる。こうしたことにより内房のレジャー施設にも大きな影響を与えていますが、地元にとってはこのまま何の対策もとらずに放置すれば、年々じり貧になり、観光地としてのイメージダウンになることは必至であります。これは行楽客を対象にしている観光業者にとっては死活問題であります。

そこで、海水観光客が減った原因と、早急な対策について当局はどのような対応策を検討されているかお聞かせ願いたいと思います。

以上 4 点にわたり御質問申し上げました。御答弁によりまして再質問させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの脇田議員の質問にお答えいたします。

大きな第 1 のコンピューター教育、プール病、一輪車教材、通学バス、この問題につきましては教育長より答弁させますので、御了解を賜りたいと思います。

大きな第2の福祉対策についての御質問でございますが、福祉作業所の定員は19人ですが、運用で現在24人入所しております。現在の作業内容から勘案いたしますと、さらに若干名の入所が可能でございます。そこで、当面拡充の計画はいたしていません。

次に、精神薄弱者の施設不足の御質問につきましては、現在社会福祉法人安房広域福祉会「中里の家」において拡充計画があると伺っておりますので、推移を見ながら、あわせて広域的な方向でとらえてまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、都市マスタープランについての御質問でございますが、都市マスタープランは、長期的視点に立って将来の都市構造や土地利用の基本方針、都市施設等を検討し、用途地域等の地域、地区、都市計画道路、公園及び下水道等の基本的事項について相互に整合のとれた一貫性のあるものとして位置づける計画でございます。したがって、道路ネットワークについても将来の都市構造を構築するにふさわしい計画になるものと考えております。

次に、大きな第4の観光対策についての御質問でございますが、本年の海水浴客の入り込み数は館山市では36万 5,000人で、前年度に比較いたしましたら87.1%、5万 4,000人の減少でございました。海水浴客の減少につきましては、今脇田議員から御指摘のありました原因のほか、8月初旬が例年に比べ冷夏であったため等から全般的に減少したものと考えております。今後の対策といたしましては、道路交通網整備の早期実現やJRの利便性等、関係機関に引き続き働きかけるとともに、魅力ある海浜整備の推進に努め、観光館山として積極的にPR活動を展開してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

教育問題でございますが、小さな1のCAI教育についてでございますが、CAIは恐らくコンピューター・アシステッド・インストラクションの略だ

と思いますけれども、コンピューターを利用しての教育という意味じゃないかと思いますが、そのような解釈のもとでお答えいたします。

小学校におけるコンピューターを利用する教育は、小学校指導書教育課程一般編に示されておりますように、コンピューターになれ親しませることを基本とし、活用例として、教科の指導においては指導の効果を高める観点から利用すること、クラブ活動で利用したりすることの2点が挙げられ、それらを通して情報活用能力を身につけさせることとしております。それには教師による指導の中で、児童の理解を助け、自発的な学習を支援し、思考力を鍛え、創造力を発揮するために、道具としてコンピューターを使うことがよいことと考えております。館山市の小学校教育におけるコンピューターの導入につきましては今後の検討課題として考えてまいりたいと存じております。

次に、小さな第2点目の学校でのプール病対策についての御質問でございますが、今回の船形小学校の場合、6月20日前後から欠席者が徐々に増加し、その大半が医師からプール熱——咽頭結膜熱あるいは流行性角結膜炎との診断があったため、学校では直ちにプールの使用を中止し、2日間午前中授業、各教室の机、いすの消毒、手洗い等の徹底、また館山保健所の指導のもとにプールの天日乾燥、消毒を行った後水を入れかえました。教育委員会といたしましても、各小中学校にプール熱と診断された児童生徒がいた場合は前に述べたような措置をするよう指示いたしました。以上の措置により、他の小中学校に大きな広がりはありませんでした。今後のプール管理についてでございますが、プール水の残留塩素濃度を一定に保つなどしてプール水の維持管理に万全を尽くし、プール病の発生の防止に努めていきたいと考えております。

次に、小さな第3点目の一輪車を学校教育のスポーツ教材に取り入れたらどうかという御質問でございますが、現在市内11小学校中8校が一輪車を正課体育で、あるいはクラブ活動で教材として活用しております。一輪車のもたらす効果、導入につきましては、各学校において継続的に研究、検討がなされております。指導要領におきまして、指導計画を作成する上で、地域や学校の実態を考慮するとともに、個々の児童の運動経験や技能の程度に応じ

た指導が十分に行えるよう工夫することとありますが、各学校の運動場の広さあるいは児童数等を勘案いたしまして指導計画の作成、教材の選定に当たるのが教育の成果を上げる上で最も好ましいものと考えております。したがって、一輪車につきましては現状のままでよいのではないかと考えております。

次に、小さな第4点目の通学バスの停留所についての御質問でございますが、現在の路線は国道128号線から竹原の田辺、さらに地元等からの要望により、今年度から横枕、滝ノ谷地区に乗り入れ、128号線に出てまいります。竹原には集落に近い場所に停留所として、竹原青年館、横枕、滝ノ谷回転場の3カ所の停留所が設置してございます。今後竹原の相賀及び田村地区への乗り入れについては道路整備等が済みましたならば検討してまいりたい、このように考えております。

次の自由乗降 ― 自由に乗りおりということだろうと思いますが、自由乗降についての問題でございますが、スクールバスへの乗降については、生徒の安全確保及び人数の把握ができるため、現在決められている停留所で乗降させ、自由乗降にすることは考えておりません。

次に、自転車通学対象者の補助の問題についての御質問でございますが、学校統合により遠距離となりました生徒の保護者に対しまして、館山市遠距離通学補助金交付規則に基づいて、通学距離が4キロメートル以上6キロメートル未満の者に通学費の補助をしており、今後も規則に基づいた通学費の補助をしていきたい、このように考えております。

答弁を終わります。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ただいま御答弁ございましたが、何点かまず教育問題について再質問させていただきます。

教育問題については4点ありましたけれども、CAI教育についてはさらに今後とも検討を重ねていただきたい、このように思います。

ただ、プール病については、今後こういうことが起こらないように各学校に対して慎重に対処されるようによろしく願いいたしたいと思っております。



次に、一輪車の問題でありますけれども、学校に自主的に任せしてあるんだという御答弁でございますけれども、先ほど私もいろいろな方面から見たときに、すごく小学生においてはやはりいろんな面で有効な体育教材かなということで今回取り上げてみたんでございますけれども、その中で今8校入っております、私の聞いているところでは、多いところは35台から少ないところは7台ですか、ございまして、大分その幅が広いわけです。その中で、その購入方法として、購入している――教材備品で買われているところもあれば、あるいは寄附で賄っているところもあります。それと、卒業記念で行っているところもありますけれども、私は――そのあと残りの3校なんですけれども、全然そういうような――豊房小学校と北条小学校、館山小学校でございますが、その学校に対して入れる考え一切ありませんか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 館山小学校と北条小学校と豊房小学校は現在一輪車の導入をいたしておりませんけれども、どういう事情なのかよく聞いてみたいと思っております。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ぜひとも皆学校がそろってこれを導入されて、正課体育あるいはクラブ活動等で利用していただきたいと思います。

それで1点、私も道路上で子供さんがこの一輪車をふなれな格好で乗っている姿を何度か見受けたことがあるんですけれども、それでこの安全対策、今8校に対してどのような安全対策を施しているのか、その点を――校内、校外においてどういうふうに行っているのかお聞きしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 安全対策というのは教育の最大の問題でございます。生徒がいかなることがあってもけがをしたり生命を失ったりということがあってはいけないというのが指導の原点でございます。したがって、一輪車はやっぱり非常に危険なものでございますから、なれるまで非常に危険なものでございますから、これを利用して体を鍛えることは結構でございますけれども、これのためにけがをするようなことがあっては絶対ならない

わけでございますから、そのためには十分所定の場所で、道路には出ていけない、安全に気をつける、こういうような指導については各学校は非常に力を入れていまして、いろいろと聞きましても、ここまでやればあとはしようがないじゃないかと思われるほど懸命にやっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ぜひとも安全対策留意されまして、皆さんの学校でこれを導入し、できれば館山市全校の競技等をできるまでになればよろしいかなと思いますので、ぜひともその点お願いいたします。

次に、通学の問題ですけれども、バスの問題これで結構でございますけれども、自転車通学についての御質問でございます。自転車通学は学校から自宅までを対象にされておるようですけれども、それで学校から2キロまでが徒歩、2キロ以上6キロまでが自転車通学、6キロ以上がバス通学、これでよろしいですか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 自転車通学の場合は4キロ以上でございます。4キロから6キロ。6キロ以上は路線バスを利用するとか、あるいはスクールバスを利用するとか、そうなっております。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ちょっといいですか。4キロから6キロまでが自転車通学で、といいますと、要するに学校から4キロまでが徒歩ということになりますね。私の記憶では、4キロから6キロまでが補助対象で、2キロから4キロまでは補助の対象にならないけれども自転車通学はいいんだ、そういうふうに記憶しているんですけれども、これは間違いですか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 小学生の場合は2キロから4キロまでが補助の対象になります。4キロ以上は――中学生の場合は4キロから6キロ、こうなっております。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） わかりました。じゃあ私のちょっと勘違いかなと思うんですけども、といいますのは、この補助対象になっていない方も自転車通学されている方もおるかなというふうに記憶したんですけども、私のちょっと質問の勘違いでありますけれども、これは間違いなければそれでよろしいんですけども、私がちょうど思っていたのは、3キロの方も自転車で行っておったものですから、ですからその点をお聞きしようかなと思いましたが、それは間違いございませんね。3キロは自転車通学じゃありませんね。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 小学生の場合は補助対象になりますけれども、中学生の場合は4キロ以上でございますから自転車通学の対象にはなりません。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） わかりました。じゃあ教育問題は終わりにしまして、次に福祉の問題に移りたいと思います。

先ほどの御答弁で施設は拡充していかないんだという御答弁でございましたけれども、それならば中里の家にそれを移管していくんだというようなお話でございました。ですけれども、中里の家は法人でありますから、やはり全国的な――県内からも来ると思うんです。市単独ということじゃないと思うんですけども、そこでお聞きしたいのが、62年に要するに発足したときには、これ広域圏の方で補助して設立されているかと思うんですけども、それで市の方でも広域圏に補助して行っておるわけですけども、それで今後この中里の家をどのように――市の事業じゃありませんけれども、拡充していくのか、また整備されていくのか、その点伺っておきます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 中里の家の拡充の方でございますけれども、実はこれはことしの8月の22日に広域圏の理事長あてに陳情書が出ております。それによりますと、いわゆる中心が、通所による利用を主体として在宅障害者に開放し、いわゆる在宅福祉の向上に寄与しようとするものであり、さらに一部を入所利用も可能なものにしたいということでございます。そし

て、この計画の中身は、事業規模は用地取得が主のようでございます。取得面積 3,000平方メートル余、事業費は造成費を含め約 7,000万円程度と見込んでおり、平成4年度事業として実施いたしたいというような考え方の方でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ぜひ市の方でできないということであればそちらの方に援助されて、あの中で館山市が中心となってぜひとも実現させていただきたい、そのように要望しておきます。

次にマスタープランについてですが、先ほど申し上げたように、このプラン策定はいろいろなプロセスがあると思います。それで、本年度においては先ほど 690万の予算がとられております。それで、本年度と来年度にかけて策定していくのでありますけれども、今年度はどの辺まででき上がっていくのか、これだけ予算かけて。例えば図形とか、あるいはどのぐらいの位置まで仕上がるのか、あるいは交通網の線引きをどの程度にしていくのか、具体的にわかりましたらばお答え願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えします。

本年6月に都市整備協会と委託契約をしており、策定に当たりまして充実した内容とするために、学識経験者、県職員並びに市職員から成る策定委員会を設置しまして、7月にこれの委嘱が終わりまして、現在都市の特性と広域条件等についての資料収集、整理、それから現地調査等を現在行っているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） では具体的に行うということで、1点——細かいことで申しわけないんですけれども、ちょっとお聞きしたいんですけれども、道路網のことに對して1つだけお聞きしておきたいんですけれども、現在県道富津—館山線ございますね。それが三芳村は大分拡幅されて、両側に歩道

をつけて、拡幅工事が進んで完備されてきているんですけども、館山市内に入るところから不可能に近いんだというお話があるんですけども、それをいろいろな角度から聞きますと、それを市街地方面ではなく、館野方面の128号線に振り向けていくんだというようなお話もちょっとあるんですけども、その点についてはどのように検討されていますか。

それともう一つ、前回の議会でちょっと質問できなかったんですけども、八幡－高井線の――現在都市計画道路で八幡－高井線ございますね。その延長を要望、提案したことがございますけれども、それを含めてお願いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 狭隘な高井の道路のルートを変更すべく、3案のうちの1つの案として館野地区との接続ということを今考えております。館山土木事務所へそのようなことを説明されております。

それから、八幡－高井線の延伸を萱野まで持ってきたらどうかという御提言でございますけれども、現在市役所の中に道路整備検討委員会が開かれておりまして、その回答をまちながらこの都市マスタープランにぶつけて、それもどうかというふうに検討したいと思います。ただ、道路というのは感覚的につくれませんので、いろいろなデータを集め、そしてよい結果が出るようにしたいと思います。慎重に決めながら、決まりましたら早いところ道路改良事業を考えておりますので、今そんな準備段階でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） そうしますと、現在新橋という橋がございまして、一昨年ですか、完成したのは。ちょっと記憶が定かでないんですけども、そうしますと、その橋がございましてね。それと、県道富津線を例えば128号に接続していくんだとなりますと、現在の新橋があれだけの橋ができて、両方道路が接続されていないために利用がなかなかされていないわけです。その点との関係についてはどのように……。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 新橋が効果が上がっていないという御指摘だと思いますけれども、実はその北側というんですか、腰越から来る道路が相当低いんです。それをその橋まで上げるのには、県の滝川の河川改修をお願いしないと道路が上がってきません。それを上げないとその道路の効果が出ないんですけれども、そんなことで県にお願いして、一刻も早くと言うんですけれども、実際はいつになるかわかりませんが、早急にそれを対処してくれ、そうしませんと新橋の効用ができないということで強く訴えております。向こうも検討しましょうと言っておりますけれども、今年度やるという返事はいただいておりますけれども……。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） いや、そこで今私が最初に聞いたのは、県道富津－館山線が例えば国道に接続したときに、あの橋を利用してその線を引いていくのかどうか、その辺を……。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） あの橋は幅員が5メートルしかございませんので、道路の車の行き交いが非常に無理かと思います。幅員は富津－館山線の構造は12メートルは必要だということでございますので、もう一本上につくらなければならないというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） その橋の問題ですけれども、また幾らも上に上がらずにもう一本つくると言う――それは多いにこしたことはありませんけれども、両方1本で使えれば一番いいわけです。それが計画が後先になってみたり、先につくったのが使えなかったといううちはぐな面が広く見受けられるんです。

1点追加で聞いておきたいんですけれども、都市計画道路の中で、あれは大賀－川名線かな、今バイパスにぶつかった線がありますね。それで、大賀－川名線は向こうの方の城山の裏を回る線なんですけれども、それと館－白

バイパスと大賀—川名線がございますね。それもやはり道路が橋でまたぐわけですよ、川を。あそこの湊川ですね。そうすると、最近新しい1本橋できましたね、住宅の中に。そうしますと、あの辺にこれから新設の橋が何本かできてくるわけです。そういうふうな整合性についてはどうなんですか、これ。計画がばらばらというような感じが受けられるんですけども、その点は……。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 御指摘の橋は梅田橋という橋だと思いますけれども、そこは地域のその住民だけが使う橋でございますので、それを例えば7メートル、8メートルの幅のものにしましても、その地域全体の道路が3メートル、4メートルしかございませんので、その過去の梅田橋のそれよりも車が通れるというぐらいにしか復旧しなかったわけです。そんなことで梅田橋を対処したわけですけども、今度の場合には川名—大賀線についてはそれなりの橋をつくりたいと思っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） この都市マスタープランについてはだれもがなるほどなというような策定をひとつよろしく願いたいと思います。

最後に観光の問題ですけども、大分観光の入り — 海の観光客の入りが少ない。これは館山市は本当に長年海をメーンに観光開発を行ってきたわけですけども、ここ何年か見ますと大分その入り込みが減っているかな、まして今年は特に下がってきたというようなことでありまして、私は単に交通渋滞 — 先ほど御答弁ございましたけれども、交通渋滞だけの面じゃないんじゃないかなという考えもあります。例えば — 新聞等に出ておりましたけれども、白浜のキャンプ場白浜海岸にございます。そのキャンプ場は今までかつてない人気だ。そして、やはりあれはマイカーで来られてキャンプをされているわけですけども、そうすると一概にその交通渋滞ということは言えないんじゃないか。それは本当に館山市の観光対策に — 観光に対しての魅力がないんじゃないかという指摘もされておるんです。

ですから、そこでお聞きしたいのが、例えばこれから行われます城まつり  
あります。城まつりにもいろんな人たちからお聞きしますといろんな問題が  
あるようでございますけれども、それに対して新しいものを今後 — この城  
まつりだけ1点を取り上げた場合、今後新しいものを取り入れていくのか、  
旧態依然にこのままのイベントでやっていくのか、その点をまず伺っておき  
たいんですけれども。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいま、今までの観光事業に関して従来どお  
り変えていくのかという御質問だと思いますが、これはほとんどの行事を協  
会さんの方をお願いしている状況にもございます。したがって、市の観  
光事業、行事を一応年度内につきましてはもう予定、計画立てて既におりま  
すので、もちろんその間にまた新たなものが考えられることありましょ  
う。そういった上で、今後ともいわゆる集客、来客の魅力ある行事というこ  
とでもってさらに検討してまいりたいと存じます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 私も何年か前に視察行ったときに、視察行った先の  
市で観光PRを大分行っているんですけれども、その観光PRの中に、地元  
のテレビにPRを、コマーシャルを大分流している市もございまして、四、  
五日前ですか、観光協会だと思いますけれども、大原の裸まつりですか、あ  
れも大分テレビで宣伝しておりましたけれども、館山市としてどのようなP  
Rを今まで行ってきておりますか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） まず、これはPRの方法、内容等でございます  
が、これは観光協会さん、それから市の観光課職員一緒になるわけござい  
ますが、テレビ関係 — これNHK含めまして6社ぐらいですか、これが平  
成2年度でもって取材に対応いたしましたのが17件、そのほか協力参加、こ  
れはロケの協力であるとか他県での花の協力であるとか、こういったのが13  
件、そのほかキャラバン等を行っております。協会の方がこれらの実績とし



て、取材、それから雑誌、ポスター等でもって 441万 2,000円経費宣伝費にかけております。市の方といたしましては、パンフレット、チラシ、ポスター等でもってことしの予算が 414万。それから、これは広域的な組織ですが、南房総観光協会の連絡協議会がございます。これが昨年度の実績として 275万 2,000円、これは雑誌、情報誌、それからパンフレット等への宣伝費用でございます。こんなふうな状況でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 大分PRさせておると思うんですけども、単独なコマーシャル、コマーシャルはまだそこまではっていないかなと思いますけれども、コマーシャルを行っているところもございますので、ぜひともその中に入れていただきたいと思います。

それで、よく話を聞くんですけども、これは海の問題で、海の時代は終わったかなという声も聞かれるんですけども、館山の北条海岸——これから西口ができて、道路も海岸にすばらしい道路が接続されます。あの北条海岸の今のままでなくて、やはり大々的な改革というか、例えば砂を入れかえてみたり、あるいはあの西口開発と一緒に何かこの北条海岸をさらに拡充整備をしていく計画はございますか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 現在のところ、今年度予算におきまして無料休憩所、これらを全部建てかえる予定で進んでおります。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） いずれにしても、とにかくやっぱり観光館山のイメージをさらに強調していただきたいな、このように思いますので、その点を要望しまして終わります。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 以上で9番議員脇田安保君の質問を終わります。

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は明9月18日午前10時開会とし、その議事は本日に引き続き通告による行政一般質問を行います。

この際申し上げます。一般議案、補正予算に対する質疑通告の締め切りは9月18日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問